

科目授業名	授業代表教員氏名	開講年度学期	授業区分	曜日時限	科目コード	ページ数
運動と健康 a	佐久間 彩	2025年度 前期	週間授業	火5	10030	3
運動と健康 c	平野 陸	2025年度 後期	週間授業	木3	10030	4
運動と健康 d	平野 陸	2025年度 後期	週間授業	木4	10030	5
日本国憲法 a	古屋 等	2025年度 前期	週間授業	木4	10036	6
日本国憲法 b	古屋 等	2025年度 後期	週間授業	月1	10036	7
日本国憲法 c	古屋 等	2025年度 後期	週間授業	木1	10036	8
日本国憲法 d	古屋 等	2025年度 後期	週間授業	木2	10036	9
日本国憲法 e	古屋 等	2025年度 後期	週間授業	木3	10036	10
キリスト教の精神と文化Ⅱ a	小幡 幸和	2025年度 後期	週間授業	金2	10051	11
キリスト教の精神と文化Ⅱ b	野口 良哉	2025年度 後期	週間授業	金2	10051	13
キリスト教の精神と文化Ⅱ e	鈴木 光	2025年度 後期	週間授業	金2	10051	15
キリスト教の精神と文化Ⅱ g	野口 良哉	2025年度 後期	週間授業	金4	10051	16
キリスト教の精神と文化Ⅱ j	鈴木 光	2025年度 後期	週間授業	金4	10051	18
キリスト教の精神と文化Ⅱ l	野口 良哉	2025年度 後期	週間授業	金5	10051	19
キリスト教の精神と文化Ⅱ o	鈴木 光	2025年度 後期	週間授業	金5	10051	21
心理学 a	黒澤 泰	2025年度 前期	週間授業	月4	10113	22
心理学 b	林 雅子	2025年度 前期	週間授業	火3	10113	24
心理学 c	林 雅子	2025年度 後期	週間授業	火3	10113	26
カウンセリングとメンタルヘルス a	水柿 義之	2025年度 前期	週間授業	金3	10115	28
カウンセリングとメンタルヘルス b	水柿 義之	2025年度 後期	週間授業	金3	10115	30
対人関係の心理学 a	水柿 義之	2025年度 前期	週間授業	金5	10116	32
対人関係の心理学 b	水柿 義之	2025年度 後期	週間授業	金4	10116	34
対人関係の心理学 c	水柿 義之	2025年度 後期	週間授業	金5	10116	36
国際経済と暮らし	浅川 あや子	2025年度 後期	週間授業	水3	10130	38
教育と人権	古屋 等	2025年度 前期	週間授業	木3	10131	39
共に生きる	池田 幸也	2025年度 前期	週間授業	水2	10133	40
ジェンダーの現在 a	中島 美那子／石塚 美也	2025年度 前期	週間授業	金4	10134	41
ジェンダーの現在 b	友野 清文	2025年度 後期	週間授業	水3	10134	42
家族を考える	友野 清文	2025年度 前期	週間授業	火4	10135	43
地域を学ぶ a	川又 啓蔵	2025年度 前期	週間授業	金5	10140	44
ライフサイクルと健康	原島 利恵	2025年度 前期	週間授業	金6	10146	46
地球環境と人間 a	大塚 雅哉	2025年度 後期	週間授業	月2	10148	48
地球環境と人間 b	大塚 雅哉	2025年度 後期	週間授業	月3	10148	49
災害と人間 a	川又 啓蔵	2025年度 前期	週間授業	金4	10150	50
災害と人間 b	川又 啓蔵	2025年度 前期	週間授業	金6	10150	52
災害と人間 c	川又 啓蔵	2025年度 後期	週間授業	金4	10150	54
宇宙の探究 a	神谷 宏治／池田 博／夏目 恭平	2025年度 前期	週間授業	月2	10153	56
英語文学概論A	菅野 弘久	2025年度 前期	週間授業	木5	12078	57
児童文学(英語圏)	菅野 弘久	2025年度 後期	週間授業	木5	12079	59
ホスピタリティ論	澤井 萌	2025年度 後期	週間授業	木4	12165	60
グローバルイングリッシュ	野田 知子	2025年度 後期	週間授業	木3	12180	62
教育統計学	佐々木 隆宏	2025年度 後期	週間授業	金6	13017	64
地域社会研究I	鈴木 克彦	2025年度 前期	週間授業	木2	13554	65
地域社会研究II	鈴木 克彦	2025年度 後期	週間授業	木2	13555	66
西洋史	森下 嘉之	2025年度 前期	週間授業	月4	14147	67
歴史学A	藤野 真拳	2025年度 前期	週間授業	木4	14155	68
観光地理学	薄井 晴	2025年度 前期	週間授業	水5	14172	69
日本史A	藤野 真拳	2025年度 前期	週間授業	金3	14206	71
日本史B	藤野 真拳	2025年度 後期	週間授業	金3	14207	72
生命と倫理	北 夏子	2025年度 前期	週間授業	水6	20003	73
人間と哲学	北 夏子	2025年度 後期	週間授業	水6	20004	74
人権と教育	古屋 等	2025年度 後期	週間授業	月2	20006	76
社会学	北 夏子	2025年度 前期	週間授業	木4	20013	77
社会病理学	渡邊 健蔵	2025年度 前期	週間授業	木3	21061	78
心理福祉特講B	渡邊 健蔵	2025年度 前期	週間授業	木4	21063	79
児童・家庭福祉I	朴 東民	2025年度 前期	週間授業	木5	21139	80
児童・家庭福祉II	朴 東民	2025年度 後期	週間授業	木5	21140	81
高齢者福祉I	池田 幸也	2025年度 前期	週間授業	木2	21143	82
高齢者福祉II	池田 幸也	2025年度 後期	週間授業	木2	21144	83
刑事司法と福祉B	高橋 活夫	2025年度 後期	週間授業	木1	21158	84
マーケティング論I	田原 静	2025年度 前期	週間授業	木3	41041	86
マーケティング論II	田口 尚史	2025年度 後期	週間授業	火2	41042	87

流通システム論	田口 尚史	2025年度 前期	週間授業	火2	41043		88
流通経営論	田口 尚史	2025年度 後期	週間授業	水3	41044		89
応用簿記論	竹内 翼	2025年度 前期	週間授業	火2	41049		90
会社簿記論	竹内 翼	2025年度 後期	週間授業	火2	41050		92
公共経営特講	野口 通	2025年度 前期	週間授業	月4	41085		94
マーケティングコミュニケーション論	田原 静	2025年度 前期	週間授業	木4	41130		96
中小企業経営論	椎名 則夫	2025年度 前期	週間授業	火5	41133		97

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 a				
担当者	佐久間 彩				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答(reflection paper)	
授業の概要					
健康を維持・増進し、心身の状態を整え、健康な心身を保つための方法のひとつに運動があります。本授業では、健康を適切に維持・増進するために必要な運動に関する正しい知識を学ぶことを目標とします。					
キーワード					
スポーツ 筋力トレーニング 有酸素性運動 高齢者 子ども 女性					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	1. 健康を維持・増進するために必要な運動に関する理論および実践方法について正しい知識を習得することができる。 2. 講義で学んだことを日常生活で生かす方法を考え、実践することができる。		
評価方法	期末テスト	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業の内容を踏まえて自身の健康や運動に関する行動を分析し、自分の健康状態や体力の水準を理解し、それを改善する手立てを構築できる		
評価方法	毎授業行う小レポート	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
小レポートの記述状況で評価する。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1. 授業概要の説明 2. 健康に関わる運動プログラムの紹介 3. 健康と体重の関係 4. 健康と体力・運動との関係 5. 健康寿命と運動の関係 6. 栄養と運動 (1) 7. 栄養と運動 (2)・救急処置 8. レジスタンストレーニング (1) 9. レジスタンストレーニング (2) 10. 有酸素運動 11. 運動と疲労 12. 幼児・児童の運動 13. 女性の運動 14. 高齢者の運動 15. まとめ
使用テキスト	適宜資料を配布します
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布した資料について理解を深めてください。 日頃から自分の身体・健康・運動に興味を持つとともに、ニュース等で運動やスポーツに関する情報に触れるよう心がけてください。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡、もしくはメールで連絡 (sakuma_aya@icc.ac.jp ; ○を@に変えて送信してください)
留意事項	特になし。

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 c				
担当者	平野 陸				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
「運動」が「心身の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。運動が心身の健康に及ぼす効果の理論的な背景を踏まえ、効果的なトレーニング方法および評価方法を解説し、運動を通して心身の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。					
キーワード					
運動、心身の健康、体力					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することを目指す。		
評価方法	期末レポート	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	各授業時ミニレポート	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回：授業概要の説明 第2回：運動と体力(1) 第3回：運動と体力(2) 第4回：体力の測定 第5回：運動と脳機能 第6回：運動経験と身体機能 第7回：加齢と体力 第8回：運動と生活習慣病(1) 第9回：運動と生活習慣病(2) 第10回：運動と筋 第11回：運動とエネルギー供給 第12回：栄養摂取と運動 第13回：運動と疲労 第14回：運動と環境 第15回：まとめ
使用テキスト	授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、その回のテーマ資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。 授業後は、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。 参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡してください。
留意事項	PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 d				
担当者	平野 陸				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
「運動」が「心身の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。運動が心身の健康に及ぼす効果の理論的な背景を踏まえ、効果的なトレーニング方法および評価方法を解説し、運動を通して心身の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。					
キーワード					
運動、心身の健康、体力					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することを目指す。		
評価方法	期末レポート	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	各授業時ミニレポート	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回：授業概要の説明 第2回：運動と体力(1) 第3回：運動と体力(2) 第4回：体力の測定 第5回：運動と脳機能 第6回：運動経験と身体機能 第7回：加齢と体力 第8回：運動と生活習慣病(1) 第9回：運動と生活習慣病(2) 第10回：運動と筋 第11回：運動とエネルギー供給 第12回：栄養摂取と運動 第13回：運動と疲労 第14回：運動と環境 第15回：まとめ
使用テキスト	授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、その回のテーマ資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。 授業後は、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。 参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡してください。
留意事項	PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 a				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。			
評価割合	5%		
▼実践的ボランティア			
該当なし			
評価割合	0%		
▼公正性			
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。			
評価割合	5%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の類型 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 b				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。			
評価割合	5%		
▼実践的ボランティア			
該当なし			
評価割合	0%		
▼公正性			
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。			
評価割合	5%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の類型 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 Ⅱ				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。			
評価割合	5%		
▼実践的ボランティア			
該当なし			
評価割合	0%		
▼公正性			
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。			
評価割合	5%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の類型 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 d				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。			
評価割合	5%		
▼実践的ボランティア			
該当なし			
評価割合	0%		
▼公正性			
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。			
評価割合	5%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の類型 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 e				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。			
評価割合	5%		
▼実践的ボランティア			
該当なし			
評価割合	0%		
▼公正性			
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。			
評価割合	5%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の類型 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつつっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II a				
担当者	小幡 幸和				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	08 協同学修 11 討論 16 振り返り課題と応答	
授業の概要					
・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー（世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養）の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストの英語部分については必要に応じて授業の中で解説をします。 ・キリスト教の観点から現代世界の諸問題（いのちの大切さ、利他の精神、差別、社会の分断、暴力と平和、等）を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察します。 ・キリスト教の祝祭（クリスマス、イースター）の聖書的・歴史的・文化的意味を学びます。 ・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時間を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。					
キーワード					
世界の著名人による聖書引用、利他、対話、キリスト教と医療、キリスト教と時間概念、いのちの大切さ、アフリカ精神とキリスト教、アメリカ合衆国の社会問題とキリスト教、暴力と平和、キリスト教の祝祭					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。		
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	【第01回】	オリエンテーション・序論：聖書の言葉と世界の著名人 テキスト：Ch.1 ジャスティン・ビーバー
	【第02回】	聖書の言葉とaltruism（利他主義） テキスト：Ch.2 ビル・ゲイツ（参考：Ch.23 テッド・ターナー）
	【第03回】	聖書の言葉を引用するスポーツ選手 テキスト：Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール
	【第04回】	キリスト教と医療 テキスト：Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・ブラントリー
	【第05回】	いのちの大切さ テキスト：Ch.12 J.K. ローリング（「ハリー・ポッター」作者）
	【第06回】	アフリカ精神とキリスト教 テキスト：Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ
	【第07回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（1） テキスト：Ch.13 チャドウィック・ボーズマン
	【第08回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（2） テキスト：Ch.5 ジェレミー・リン
	【第09回】	キリスト教と対話の精神（宗教間対話を例に） テキスト：Ch.21 ダライ・ラマ
	【第10回】	キリスト教と時間概念 テキスト：Ch.24 エディ・レッドメイン（参考：Ch.8リッチ・フローニング）
	【第11回】	聖書にみる試練の意味 テキスト：Ch.9 池江璃花子、Ch.22 ヴィクトール・フランクル
	【第12回】	キリスト教の視点から考える暴力と平和1：暴力の多様な理解 テキスト：Ch.10 マライア・キャリー
	【第13回】	キリスト教の視点から考える暴力と平和2：平和の多様な理解 テキスト：Ch.4 緒方貞子（参考：Ch.20 マハトマ・ガンディー）
	【第14回】	クリスマスの様々な意味
	【第15回】	イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り テキスト：Ch.19 英国ウィリアム王子
定期試験		

使用テキスト	【必須テキスト】Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人：TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。 ・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。 ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分も授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください（60分）。 ・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学習を通じ知見を深めるてください（60分）。 ・参考文献としては『聖書』（新共同訳）をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスパワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。 ・デバイスを持参してください。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II b				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む	
授業の概要					
【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】課題研究型					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。			
評価割合	0%		

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	1 聖書の構成／聖書の原語 2 聖書の年代／聖書の主題 3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル) 4 聖書の歴史的流れ(History&Story) 5 聖書味読1：旧約聖書①原初物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒” 6 聖書味読2：旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」) 7 聖書味読3：新約聖書①イエスのたとえ話(タラント、良きサマリア人、放蕩息子など) 8 聖書味読4：新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)
	※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)
	後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論 10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど) 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など) 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物] 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生] 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]
使用テキスト	定期試験
	＜授業パターン＞
	基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。 1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業に参加する ・『聖書』を使用。※何語でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるゲデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。 ・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等	シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。 推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！
授業時間外の連絡手段	基本的に、キアラ館のチャプレン室にいますので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。
留意事項	『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II e				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答 ほか	
授業の概要					
キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。 入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思ひます。 * 講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実際的な適用についても触れていきます。 * AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 * おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。		
評価方法	リアクションペーパーほか	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 * いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
評価対象にはしません。			
評価割合	0%		
▼公正性			
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となります。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 人間は何かからできているか 第6回 イエス・キリストの奇跡 第7回 エリエリレマサバクタニ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 ＊旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない） ＊新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジュメや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておく（復習）よいでしょう。参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどでご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II g				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む	
授業の概要					
【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】課題研究型					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や厳重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。			
評価割合	0%		

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	1 聖書の構成／聖書の原語
	2 聖書の年代／聖書の主題
	3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル)
	4 聖書の歴史的流れ(History&Story)
	5 聖書味読1： 旧約聖書①原初物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒”
	6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」)
	7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラント、良きサマリヤ人、放蕩息子など)
	8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)
	※ 9 学園記念館訪問 (学園の歴史展示見学など)
授業計画	後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論
	10 教会史概観1 (キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど)
	11 教会史概観2 (三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など)
	12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ
	13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物]
	14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生]
	15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]
	定期試験
	＜授業パターン＞
	基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。
使用テキスト	1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う
	2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす
	3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く
	4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業へ参加する
	・『聖書』を使用。※何語でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるゲデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。
	・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等	シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。 推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！
授業時間外の連絡手段	基本的に、キアラ館のチャプレン室にいますので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。
留意事項	『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II j				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答 ほか	
授業の概要					
キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。 入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思ひます。 * 講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実際的な適用についても触れていきます。 * AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 ＊おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたりアクションペーパーの提出をもって成績判定する。		
評価方法	リアクションペーパーほか	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 ＊いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
評価対象にはしません。			
評価割合	0%		
▼公正性			
評価対象にはしませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となります。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 人間は何かからできているか 第6回 イエス・キリストの奇跡 第7回 エリエリレマサバクタニ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 ＊旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない） ＊新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジュメや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておく（復習）よいでしょう。参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどでご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II I				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む	
授業の概要					
【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】課題研究型					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。			
評価割合	0%		

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	1 聖書の構成／聖書の原語 2 聖書の年代／聖書の主題 3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル) 4 聖書の歴史的流れ(History&Story) 5 聖書味読1： 旧約聖書①原初物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒” 6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」) 7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラント、良きサマリア人、放蕩息子など) 8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等) ※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)
	後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論
	10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど) 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など) 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物] 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生] 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]
使用テキスト	定期試験
	＜授業パターン＞
	基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。
	1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業に参加する ・『聖書』を使用。※何語でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるゲデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。 ・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等	シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。 推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！
授業時間外の連絡手段	基本的に、キアラ館のチャプレン室にいますので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。
留意事項	『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II Ⅱ				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答 ほか	
授業の概要					
キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。 入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思ひます。 * 講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実際的な適用についても触れていきます。 * AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 * おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたりアクションペーパーの提出をもって成績判定する。		
評価方法	リアクションペーパーほか	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 * いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
評価対象にはしません。			
評価割合	0%		
▼公正性			
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となります。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 人間は何かからできているか 第6回 イエス・キリストの奇跡 第7回 エリエリレマサバクタニ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 * 旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない） * 新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジュメや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておく（復習）よいでしょう。参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどでご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10113	科目ナンバリング	主な使用言語		日本語
授業名	心理学 a				
担当者	黒澤 泰				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜4限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	11. 討論 17. 発問と回答	
授業の概要					
本講では、”病んでいるのは個人か社会か”という大きなテーマを設定し、個人が抱える心理的な問題と社会が抱える社会的な問題を概説し、個人と社会の交差する点における課題について検討していく。					
キーワード					
個人、社会、精神疾患、社会病理					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	テーマに基づき、疑問や問題を提起し、客観的事実や論理的な推論による議論を進め、最後に適切な解答や結論に導くことができる。またそれを妥当な手段で報告することができる。		
評価方法	最終レポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で取り組んだテーマを基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを適切に表現することができる。		
評価方法	最終レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やプレゼンテーション内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
本講は教養科目として位置づけられている。心理福祉学科生は、学科内での授業内容と重複が存在することは留意すること。			
評価割合	0%		

授業計画	1. オリエンテーションと授業契約の締結
	【第一領域：遺伝か環境か】
	2. 知的障害 3. ギフティッド
	【第二領域：病理と社会病理】
使用テキスト	4. 境界性パーソナリティ障害(1) 5. 境界性パーソナリティ障害(2) 6. 自己愛性パーソナリティ障害 7. 回避性パーソナリティ障害 8. 反社会的パーソナリティ障害
	【第三領域：個人の問題？社会の問題？】
	9. 摂食障害 10. 過剰摂取 11. 依存症 12. インターネット依存 13. 過労とバーンアウト 14. 精神病理と文化
	【第四領域：プレゼンテーションとまとめ】
15. 病んでいるのは個人か社会か 特になし	
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・クレイジー・ライク・アメリカ：心の病はいかに輸出されたか 単行本 - 2013/7/4イーサン ウォッターズ（著）、Ethan Watters（原名）、阿部 宏美（翻訳） ・依存症ビジネス―「廃人」製造社会の真実 単行本（ソフトカバー） - 2014/10/10デイミアン・トンプソン（著）、中里 京子（翻訳）、ダイヤモンド社 ・パーソナリティ障害 いかに接し、どう克服するか（PHP新書）新書 - 2004/6/16. 岡田 尊司（著）、PHP新書.
障がいのある履修者への対応	真摯に対応したいので、まずは学務部に相談すること。
授業時間外の連絡手段	授業内の連絡はTeamsを通じて行う。

留意事項

【重要事項】

- ・本講は、以前、抽選に漏れた学生の履修を最優先とする。
- ・四年生の履修は優先するが、成績評価は他の学年と同様に行う。本講の単位が卒業に必須な場合、真面目に授業に取り組む、単位認定基準を満たすこと。
- ・受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整を行う。
- ・抽選を行う際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めない。実習や就活等で初回授業に参加できない場合は、事前に連絡を行うこと。
- ・一切の不正行為（友人から出席コードを聞き不在にもかかわらず出席すること、出席だけ行い早退すること、タイミングを見計らってコメントシートを回答すること）は認めない。不正防止のため、定期的にチェックを行う（e.g. コメントシートと紙のコメントシートの併用）。なお、不正が発覚した場合、厳正に対処する。
- ・欠席や遅刻、早退する際は、正直に報告すること。欠席や遅刻、早退に関してのペナルティは与えないことを誓約する。

【留意事項】

- ・授業内で取り扱う精神疾患に罹患している学生は折り合いをつけて授業に臨むこと（例えば、自身の疾患と関係するコマに関しては欠席するなど）。本講は授業の場であり、治療の場ではない。
- ・Teamsをダウンロードし、該当チームに登録しておくこと。
- ・受講人数が多い場合、最終評価の方法として、定期試験を行う場合がある。

科目コード	10113	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	心理学 b				
担当者	林 雅子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方は少なからずいるでしょう。この授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。					
授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートの執筆課題が課されます。					
キーワード					
生涯発達心理学、アイデンティティ、発達段階、対人関係					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。		
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。		
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内にて行う小レポート課題の提出状況によって判断する。 学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。 なお、授業中に秩序を乱すような行為をした場合は、減点または厳重注意の対象とする。			
評価割合	30%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。			
評価割合	0%		
▼その他			
とくになし			
評価割合	0%		

	【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か 授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。
	【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達 人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。
	【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達 人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。
	【第4回】胎児・乳児期の発達 胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。
	【第5回】幼児期の発達 幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。
	【第6回】児童期の発達 学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。
	【第7回】青年期前期の発達 思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。
	【第8回】青年期後期の発達

授業計画	アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。 【第9回】成人期（成人前期）の発達 職業移行の難しさなど、青年から成人への発達の变化について考えます。 【第10回】中年期（成人後期）の発達 中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。 【第11回】老年期の発達 老年期における喪失と獲得について考えます。 【第12回】発達障害と共に生きる 発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。 【第13回】対人関係の発達(1) 親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにより変化・発展していくかを考えます。 【第14回】対人関係の発達(2) 対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。 【第15回】まとめ これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。 【最終試験】 試験内容や形式については授業内で発表を行います。
使用テキスト	なし 事前にIC-UNIPAに授業資料を掲示するので、各自で印刷またはダウンロードをお願いします。 初回授業のみ、授業内で資料を配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【授業中の取り組み】 この授業では生涯における発達の变化について考えていきます。そのため、自分自身の過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると考えられます。 【授業外の取り組み】 授業の最後に次回のテーマを予告します。また、次回の授業資料は事前に掲示するので、次回のテーマに関して調べてみたり、授業前に資料を確認してみたりすると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は、小レポートのフィードバックをしたり、授業資料の内容を見返したりして、講義内容の理解を深めていただくようお願いします。 人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。 【参考文献・資料等】 授業資料に参考文献を毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。
障がいのある履修者への対応	事前に学務部等へご連絡するようにお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。
授業時間外の連絡手段	初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので、そちらをご利用ください。 または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。
留意事項	受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整をします。 また、その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。実習や就活等で初回授業に参加できない場合は、事前に連絡をお願いします。 後期に開講される心理学cはこの授業と同一の内容です。なるべく人数が収まるよう、日程が調整可能な学生は後期の方を履修してください。 抽選を行う際は初回授業前にIC-UNIPAでお知らせを掲示します。ご確認をお願いします。

科目コード	10113	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	心理学 c				
担当者	林 雅子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方は少なからずいるでしょう。この授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。					
授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートの執筆課題が課されます。					
キーワード					
生涯発達心理学、アイデンティティ、発達段階、対人関係					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。		
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。		
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内にて行う小レポート課題の提出状況によって判断する。学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。 なお、授業中に秩序を乱すような行為をした場合は、減点または厳重注意の対象とする。			
評価割合	30%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。			
評価割合	0%		
▼その他			
とくになし			
評価割合	0%		

	【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か 授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。
	【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達 人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。
	【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達 人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。
	【第4回】胎児・乳児期の発達 胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。
	【第5回】幼児期の発達 幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。
	【第6回】児童期の発達 学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。
	【第7回】青年期前期の発達 思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。
	【第8回】青年期後期の発達

授業計画	アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。 【第9回】成人期（成人前期）の発達 職業移行の難しさなど、青年から成人への発達の变化について考えます。 【第10回】中年期（成人後期）の発達 中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。 【第11回】老年期の発達 老年期における喪失と獲得について考えます。 【第12回】発達障害と共に生きる 発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。 【第13回】対人関係の発達(1) 親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにいかに変化・発展していくかを考えます。 【第14回】対人関係の発達(2) 対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。 【第15回】まとめ これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。 【最終試験】 試験内容や形式については授業内で発表を行います。
使用テキスト	なし 事前にIC-UNIPAに授業資料を掲示するので、各自で印刷またはダウンロードをお願いします。 初回授業のみ、授業内で資料を配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【授業中の取り組み】 この授業では生涯における発達の变化について考えていきます。そのため、自分自身の過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると考えられます。 【授業外の取り組み】 授業の最後に次回のテーマを予告します。また、次回の授業資料は事前に掲示するので、次回のテーマに関して調べてみたり、授業前に資料を確認してみたりすると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は、小レポートのフィードバックをしたり、授業資料の内容を見返したりして、講義内容の理解を深めていただようをお願いします。 人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。 【参考文献・資料等】 授業資料に参考文献を毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。
障がいのある履修者への対応	事前に学務部等へご連絡するようにお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。
授業時間外の連絡手段	初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので、そちらをご利用ください。 または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。
留意事項	この授業は前期に開講されている心理学bと同一の内容になります。すでに心理学bを履修されている学生さんはこの授業を履修できませんので、ご注意ください。 受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整をします。 また、その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。実習や就活等で初回授業に参加できない場合は、事前に連絡をお願いします。 抽選を行う際は初回授業前にIC-UNIPAでお知らせを掲示します。ご確認をお願いします。

科目コード	10115	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	カウンセリングとメンタルヘルス a				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修	
授業の概要					
悩みがあって親や友人、先生、先輩などに相談した時に「話してよかった」と思う時もあれば「話さなければよかった」と思う時もありますよね。 カウンセリングを学ぶと、誰かに相談された時にどうしたらいいかが分かります。そして、相手も「話してよかった」と感じるようになります。 本授業では、カウンセリングを知的だけではなく体験的に理解するためにグループワークやリスニングの演習を行います。					
メンタルヘルスとは心の健康のことを言います。 ストレスを受けると心臓がドキドキしたり、呼吸が苦しくなったり、頭や肩が痛くなったり、眠れなくなったりしますよね。これは自律神経の影響です。また、うつ病、不安症、依存症、PTSDなどのメンタル疾患は、自律神経のアンバランスと捉えられます。					
本授業では、メンタルヘルスを保つために自律神経について学び、自律神経を整えるエクササイズを行います。 学んだことを日常生活に活かせるように、エクササイズやグループワークなどの実習をたくさん行います。 履修者は実習への積極的な参加が求められます。					
<こんな人にあっています> ・心理や福祉の仕事に就きたい人。 ・話を聴くことが上手になりたい人。 ・心の健康に関心がある人。 ・自律神経を整えたい人。 ・新しい友達を作りたい人。					
キーワード					
カウンセリング、メンタルヘルス、ストレス、自律神経、ポリヴェーガル理論、メンタル疾患					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	カウンセリングとメンタルヘルスの知識を身につけている。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	自身のメンタルヘルスについて思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
遅刻や早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自律神経の理解 第3回 自律神経の働き 第4回 対人緊張から安心へ 第5回 安心を感じるグループワーク 第6回 マインドフルネスの理解と実践 第7回 マインドフルネスの実践 第8回 カウンセリングとは 第9回 リスニングのグループワーク① 第10回 体との付き合い方① 第11回 メンタル疾患の理解 第12回 リスニングのグループワーク② 第13回 体との付き合い方② 第14回 リスニングのグループワーク③ 第15回 リソースのエクササイズ（諸事情により授業計画は変更する場合があります）
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAで配布します。各自ダウンロード・印刷してください。

予習・復習の ポイントと 参考文献・資料等	予習と復習のポイント 授業内容についての質問（10分） ホームワーク（10分） 参考図書 はじめての「最新メンタルヘルス」入門 吉里恒昭
障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡 手段	連絡はIC-Mail :アドレス mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp
留意事項	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。 ①受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。 履修希望者で抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。 ②エクササイズやグループワークなどの実習を行います。実習への積極的な参加が求められます。 ③期末テストの代わりに期末レポートを出します。

科目コード	10115	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	カウンセリングとメンタルヘルス b				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修	
授業の概要					
悩みがあって親や友人、先生、先輩などに相談した時に「話してよかった」と思う時もあれば「話さなければよかった」と思う時もありますよね。 カウンセリングを学ぶと、誰かに相談された時にどうしたらいいかが分かります。そして、相手も「話してよかった」と感じるようになります。 本授業では、カウンセリングを知的だけではなく体験的に理解するためにグループワークやリスニングの演習を行います。 メンタルヘルスとは心の健康のことを言います。 ストレスを受けると心臓がドキドキしたり、呼吸が苦しくなったり、頭や肩が痛くなったり、眠れなくなったりしますよね。これは自律神経の影響です。また、うつ病、不安症、依存症、PTSDなどのメンタル疾患は、自律神経のアンバランスと捉えられます。 本授業では、メンタルヘルスを保つために自律神経について学び、自律神経を整えるエクササイズを行います。 学んだことを日常生活に活かせるように、エクササイズやグループワークなどの実習をたくさん行います。 履修者は実習への積極的な参加が求められます。 <こんな人にあっています> ・心理や福祉の仕事に就きたい人。 ・話を聴くことが上手になりたい人。 ・心の健康に関心がある人。 ・自律神経を整えたい人。 ・新しい友達を作りたい人。					
キーワード					
カウンセリング、メンタルヘルス、ストレス、自律神経、ポリヴェーガル理論、メンタル疾患					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	カウンセリングとメンタルヘルスの知識を身につけている。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	自身のメンタルヘルスについて思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
遅刻や早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自律神経の理解 第3回 自律神経の働き 第4回 対人緊張から安心へ 第5回 安心を感じるグループワーク 第6回 マインドフルネスの理解と実践 第7回 マインドフルネスの実践 第8回 カウンセリングとは 第9回 リスニングのグループワーク① 第10回 体との付き合い方① 第11回 メンタル疾患の理解 第12回 リスニングのグループワーク② 第13回 体との付き合い方② 第14回 リスニングのグループワーク③ 第15回 リソースのエクササイズ（諸事情により授業計画は変更する場合があります）
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAで配布します。各自ダウンロード・印刷してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習と復習のポイント 授業内容についての質問（10分） ホームワーク（10分） 参考図書 はじめての「最新メンタルヘルス」入門 吉里恒昭
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mail :アドレス mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp
留意事項	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。 ①受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。 履修希望者で抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。 ②エクササイズやグループワークなどの実習を行います。実習への積極的な参加が求められます。 ③期末テストの代わりに期末レポートを出します。

科目コード	10116	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	対人関係の心理学 a				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修		
授業の概要					
青年期は対人関係が難しい時期です。人といても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになってしまいます。人といても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理学を学びます。					
①昔話（三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、食わず女房、桃太郎）の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。					
②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出る方法などを学びます。					
③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。					
履修者はエクササイズ・グループワーク実習への積極的な参加が求められます。					
＜こんな人にあってます＞					
・カラを破りたい。					
・コミュニケーション能力を向上したい。					
・昔話の心理学的解釈に興味がある。					
・新しい友達を作りたい。					
・自己分析をしたい。					
キーワード					
対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 乳幼児期の心理：三年寝太郎 第3回 中身とつながるエクササイズ 第4回 コミュニケーションのグループワーク 第5回 児童期の心理：一寸法師 第6回 青年期の心理：瓜子姫 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ 第8回 オトナの心理：食わず女房 第9回 オトナから大人へ：桃太郎 第10回 カラを柔らかくするグループワーク 第11回 怒りの仕組み 第12回 怒りと上手に付き合うエクササイズ 第13回 大人として出会うグループワーク 第14回 心の魔法を解くエクササイズ 第15回 コーピングのグループワーク （諸事情により授業計画は変更する場合があります）				
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習・復習のポイント 授業の内容についての質問（10分） ホームワーク（10分） 参考図書 見られる自分～マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二				

障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡 手段	mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp
留意事項	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。 ①受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。 履修希望者で抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。 ②エクササイズやグループワークを行います。 コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。 ③期末レポートについて 期末テストの代わりに期末レポートを出します。

科目コード	10116	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	対人関係の心理学 b				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修		
授業の概要					
青年期は対人関係が難しい時期です。人といても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになってしまいます。人といても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理学を学びます。					
①昔話（三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、食わず女房、桃太郎）の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。					
②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出る方法などを学びます。					
③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。					
履修者はエクササイズ・グループワーク実習への積極的な参加が求められます。					
＜こんな人にあってます＞					
・カラを破りたい。					
・コミュニケーション能力を向上したい。					
・昔話の心理学的解釈に興味がある。					
・新しい友達を作りたい。					
・自己分析をしたい。					
キーワード					
対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 乳幼児期の心理：三年寝太郎 第3回 中身とつながるエクササイズ 第4回 コミュニケーションのグループワーク 第5回 児童期の心理：一寸法師 第6回 青年期の心理：瓜子姫 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ 第8回 オトナの心理：食わず女房 第9回 オトナから大人へ：桃太郎 第10回 カラを柔らかくするグループワーク 第11回 怒りの仕組み 第12回 怒りと上手に付き合うエクササイズ 第13回 大人として出会うグループワーク 第14回 心の魔法を解くエクササイズ 第15回 コーピングのグループワーク (諸事情により授業計画は変更する場合があります)
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習・復習のポイント 授業の内容についての質問（10分） ホームワーク（10分） 参考図書 見られる自分～マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二

障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡 手段	mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp
留意事項	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。 ①受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。 履修希望者で抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。 ②エクササイズやグループワークを行います。 コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。 ③期末レポートについて 期末テストの代わりに期末レポートを出します。

科目コード	10116	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	対人関係の心理学 c				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修	
授業の概要					
青年期は対人関係が難しい時期です。人といても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになってしまいます。人といても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理を学びます。					
①昔話（三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、食わず女房、桃太郎）の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。					
②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出る方法などを学びます。					
③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。					
履修者はエクササイズ・グループワーク実習への積極的な参加が求められます。					
＜こんな人にあっています＞					
・カラを破りたい。					
・コミュニケーション能力を向上したい。					
・昔話の心理学的解釈に興味がある。					
・新しい友達を作りたい。					
・自己分析をしたい。					
キーワード					
対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 乳幼児期の心理：三年寝太郎 第3回 中身とつながるエクササイズ 第4回 コミュニケーションのグループワーク 第5回 児童期の心理：一寸法師 第6回 青年期の心理：瓜子姫 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ 第8回 オトナの心理：食わず女房 第9回 オトナから大人へ：桃太郎 第10回 カラを柔らかくするグループワーク 第11回 怒りの仕組み 第12回 怒りと上手に付き合うエクササイズ 第13回 大人として出会うグループワーク 第14回 心の魔法を解くエクササイズ 第15回 コーピングのグループワーク （諸事情により授業計画は変更する場合があります）				
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習・復習のポイント 授業の内容についての質問（10分） ホームワーク（10分） 参考図書 見られる自分～マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二				

障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡 手段	mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp
留意事項	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。 ①受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。 履修希望者で抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。 ②エクササイズやグループワークを行います。 コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。 ③期末レポートについて 期末テストの代わりに期末レポートを出します。

科目コード	10130	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	国際経済と暮らし				
担当者	浅川 あや子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	小テストの回答、リアクションペーパーの執筆	
授業の概要					
本講義では複雑さを増す世界経済について、岩波新書『世界経済図説 第四版』を手掛かりとして、できるだけ分かりやすく解説します。冷戦終結後、急速に一体化する世界経済について、日本経済への影響も考慮しつつ学んで行きたいと思います。第14回には、授業に関連した映像資料を視聴した後に、リアクションペーパーを書いてもらいます。					
キーワード					
国際貿易、国際金融、経済危機、バブル崩壊					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で学んだ内容について概ね80%理解し、解答することができる。		
評価方法	筆記試験	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業後、IC-UNIPAのクラスプロフィールの中の「テスト管理」にアップした小テストを受けること。また第14回では、DVD視聴後にリアクションペーパーを書いて提出してもらいます。 小テストは授業の復習となります。 リアクションペーパーを書くことで、映像資料への理解が深まります。		
評価方法	小テスト：約9回、リアクションペーパー：約2回	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験やリアクションペーパー等の記述に認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中等において著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 授業案内（授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法について説明する） 第2回 世界経済の輪郭 第3回 国際貿易 第4回 国際金融 第5回 多極化、地域統合と貿易摩擦 第6回 指令経済と途上国の市場経済化 第7回 デジタル・エコノミーの拡大・深化 第8回 人口・食料・エネルギー・資源 第9回 地球環境保全 第10回 経済危機 第11回 日本のバブル発生とその背景構造、バブル崩壊と長期不況 第12回 世界経済の構造変化 第13回 外国直接投資と企業のグローバル展開 第14回 「岐路に立つ日本の家電メーカー」（DVD視聴）映像資料を視聴後、リアクションペーパーを書いてもらいます。 第15回 まとめ 定期試験
使用テキスト	宮崎勇・田谷禎三『世界経済図説 第四版』岩波新書
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業の前に、『世界経済図説 第四版』の中の、授業の該当箇所を読んでおくこと。（30分） ・授業後、IC-UNIPAのクラスプロフィールの中の「テスト管理」にアップしてある「小テスト」を実施する（30分）。 配布資料に基づき、授業の復習をする（30分）。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mailアドレスをお願いします。 「asakawa_ayako@icc.ac.jp」
留意事項	小テストについては、次の授業で簡単な講評を行います。

科目コード	10131	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	教育と人権				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
人権とは各人の自由の保障を通じて個人の人格を伸張することに本質があります。そこでは、人間相互の平等が前提とされていますが、現実には経済的・社会的な格差が存在しています。性別や国籍、障害の有無などによる区別が典型といえるでしょう。そのため、すべての人が等しく教育と労働の機会が保障されるように、さまざまな法律や命令などが整備されています。この授業では、これらの法律や命令などを憲法の人権の観点から考察することを通じて、教育と労働をめぐる生じている現代的な課題について考察することを目的としています。					
キーワード					
人権、自由権、社会権、教育の機会均等、勤労の権利・義務、労働基本権					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	人権尊重の本質に関する理解に基づいて、自由権と社会権の相互関係を説明することができる。日本国憲法の教育権や労働基本権が、法律によりどのように保障されているかを具体的な事例と関連づけて考察することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	教育および労働の機会均等を憲法の平等主義の観点から考察でき、これらをめぐる現代的課題を教育や労働をめぐる法制度を通じて検討することができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
教育や労働をめぐる社会で生じるさまざまな問題に関心を持ち、その原因を法的に分析し、解決策を自ら検討しようとする態度を身に付ける。			
評価割合	5%		
▼実践的ボランティア			
該当なし			
評価割合	0%		
▼公正性			
教育をめぐる子どもや親の自由と国家的な一定水準の確保、契約締結をめぐる労働者の保護と企業による営業の自由を対立関係として捉えることができる。			
評価割合	5%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス-授業説明と法の学び方- 2 法とは何か-法と権利の相互関係- 3 人権の誕生とその類型-自由権と社会権- 4 人権と国際的保障-個人主義と普遍性- 5 明治憲法における教育と労働 6 日本国憲法による教育と労働 7 教育の機会均等(第26条第1項) 8 教育をめぐる法制度 9 教育権をめぐる親(教師)と国家 10 教育をめぐる自治と行政 11 勤労の権利および義務(第27条) 12 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)-その1- 13 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)-その2- 14 労働基本権の保障(第28条)-労働組合法・労働関係調整法- 15 労働をめぐるさまざまな問題 16 定期試験
使用テキスト	必要に応じて参考資料を印刷して配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10133	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語							
授業名	共に生きる											
担当者	池田 幸也											
基本情報												
年次	1年	単位数	2単位	授業形式								
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等									
関連資格			AL要素	08:協同学修 11:討論 17:発問と回答								
授業の概要												
「共に生きる」という社会の実現が叫ばれて久しい。身近な地域社会における生活課題から人類の生存に関わる地球的規模の課題に至るまで「共に生きる社会」を阻む課題は多岐にわたる。この講座では、現代社会における多様な社会課題を取上げ、未来を生きるわたしたち自身が創る社会のための参加と協働の意義と方法を考察する。 また、講義を通して各自が関心を寄せるテーマを見出し、その課題へのアクションを誘うことをめざす。このために必要な情報提供は毎時間行う。												
キーワード												
現代社会	ボランティア	コミュニティ	福祉	教育	国際	差別	偏見	格差	平和	環境	文化	NPO
NGO	参加	協働	市民社会									

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	講義で取り上げたテーマについての知識の獲得と理解の深化と、共に生きる社会をめざす市民の役割と意義を説明できる。		
評価方法	試験	評価割合	80%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	講義で取り上げたテーマを基礎に、現代社会における地球規模から地域社会における課題の改善に取り組む方法、組織のマネジメント、参加と協働の実践に向けた思考力を身に付ける。		
評価方法	毎時間のリアクションシートと試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、各回の講義のテーマへの関心・意欲・態度をふりかえりシートの記述などから把握する。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティアズム			
直接的な評価対象とはしない。ただし、講義で取り上げたテーマへの関心を寄せる活動を見出した場合は、実践的な取り組みに挑むことを推奨する。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価の対象とはしない。講義の根底を貫く人類にとっての価値である人権の理解を前提に各テーマの学修を深める。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	【第01回】人類と現代社会の課題 【第02回】近代社会の誕生とボランティア 【第03回】ボランティアズムと人権 【第04回】アメリカの人種問題と公民権運動 【第05回】家族とボランティア活動 【第06回】障がい者とボランティア活動 【第07回】障がい者観を問い直すボランティア活動 【第08回】ホームレスの自立支援とボランティア活動 【第09回】途上国支援とボランティア活動 【第10回】人権擁護とボランティア活動 【第11回】好きなことを生かすボランティア活動 【第12回】多文化共生とボランティア活動 【第13回】福祉・医療施設とボランティア活動 【第14回】学校・社会教育施設とボランティア活動 【第15回】まちづくりとボランティア活動 まとめ 試 験
使用テキスト	池田幸也『ボランティア論』～市民社会の創造～ 発行：大学図書出版 2022年 第2版 ISBN978-4-907166-81-6
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	教科書をベースに毎回の講義テーマについて取上げるので、講義の前には教科書の該当箇所を熟読して予習する。講義の後には、疑問や課題を整理し、調べ学習を通して復習に努める。参考文献や資料は毎回の講義で必要に応じて提示する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、あらかじめ学務課等にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	初回の講義でお知らせします。
留意事項	* テキストに基づき講義を展開するので、あらかじめ購入し毎時間持参すること。 * 「共に生きる社会」をめざすわたしたちの参加をテーマに初回から最終回まで全体を貫くストーリーがあるので、できる限り欠席しないようにすること。

科目コード	10134	科目ナンバリング	LA10C36K	主な使用言語	日本語
授業名	ジェンダーの現在 a				
担当者	中島 美那子、石塚 美也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
社会・文化的な性のありようをジェンダーといいます。本授業では、ジェンダーに関する基礎知識を学びます。ジェンダーの概念を客観的に捉えつつ、受講者が自らの見方・考え方を確立していくことができるように、できるだけ身近な事象を取り上げます。担当教員は臨床心理の実務経験を持つことから、そこから得た学びも共有したいと思います。					
キーワード					
ジェンダー、LGBTQ+、男らしさ・女らしさ、DV					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	ジェンダー、LGBTQ+、DV等に関するさまざまな理論や現在の動向について知見を深め、概ね80%の内容を解答することができる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	日頃、自明のこととして捉えてきたことが、いかにジェンダーの影響を受けているかについて考えを深め、これらのことを自らの今後の課題としてとらえ、その解決策を示すことができる。		
評価方法	リアクションペーパーおよび学期末筆記試験	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業終了時に取り組む「振り返りシート」において、明確な主体的学修や気づきの記述がある。			
評価割合	10%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等が学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。しかし、振り返りシートや学期末筆記試験での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。本授業では性的少数者や男女の公平性について論じることが多くあるため、注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	【第1回】 sex, gender, sexuality (1) 性は女と男の2つか (中島美那子) 【第2回】 sex, gender, sexuality (2) 多様な性の世界 (中島美那子) 【第3回】 「女らしさ」「男らしさ」を考える一子どもの育ち・教育の視点から (中島美那子) 【第4回】 キャリア形成とジェンダー (中島美那子) 【第5回】 ジェンダーのこれまで―行政の視点から (石塚美也) 【第6回】 昭和時代とジェンダー (1) 戦前、戦中そして戦後 (中島美那子) 【第7回】 ジェンダーを身近に考える―市民アンケート結果をもとに (石塚美也) 【第8回】 昭和時代とジェンダー (2) 女性の置かれた立場 (中島美那子) 【第9回】 LGBTQについて―性同一性障害・トランスジェンダーを中心に (石塚美也) 【第10回】 ダイバーシティとジェンダーのこれから (石塚美也) 【第11回】 恋愛・結婚とジェンダー (中島美那子) 【第12回】 ジェンダーと政治 (石塚美也) 【第13回】 DV・デートDVの現状と課題 (中島美那子) 【第14回】 男性学入門 (中島美那子) 【第15回】 子育て・介護とジェンダー (中島美那子) 定期試験
使用テキスト	中島美那子・塩原慶子『地域に生きる女たち』(溪水社, 2022年)
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前学修として、自分の生活の中にあるジェンダーについて意識してみることをお勧めします。事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します(中島のみ)。石塚先生と連絡が取りたい時は、学務部に相談してください。
留意事項	特になし。

科目コード	10134	科目ナンバリング	LA10C36K	主な使用言語	日本語
授業名	ジェンダーの現在 b				
担当者	友野 清文				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	ほぼ毎回グループワーク（話し合い）と発表を行います。ともに学び考え合うことによる協働学習を目指します。	
授業の概要					
みなさんはこれまでの生活の中で「女／男だから～しなさい／してはいけません」ということを言われたことはないでしょうか。あるいは一般論として「女／男は～である（べき）」という言葉を読んだり聞いたりしたことはないでしょうか。そしてその時どう感じたでしょうか。人は何らかの性のあり方を持っていますが、そのあり方は生まれつきの要素と同時に、社会的・文化的要素によっても影響を受けます。ジェンダーは、性のあり方を社会的・文化的側面から考える視点です。 この授業では、家族・学校・地域・社会などの場面で、ジェンダーがどのように意識され機能するかについて、みなさんの体験を踏まえて共に考えていきます。					
キーワード					
sex/gender/sexuality、性別役割分業、equality/equity、性的多様性					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業の内容を踏まえて、ジェンダーをめぐる諸課題について理解し、説明することができる。		
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	ジェンダーの視点を踏まえて、現在の生活と将来の生き方について、自分なりに考え選択していこうとする姿勢を持つ。またジェンダーの視点から、社会問題を捉え、自分の意見を持てるようにする。		
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、自ら参考資料や文献を参照したり、周囲の人と意見交換をしたりしていることが、リアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ジェンダーの問題は、社会的問題であると同時に個人的問題でもあるため、相互の存在を認め合い、人権を尊重する姿勢を大切にすることを求めたい。そして自分とは異なる意見に耳を傾けるようにお願いしたい。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	【第1回】 イントロダクション 授業のねらいと概要 【第2回】 ジェンダーとは ジェンダーに関わる経験の振り返り・共有 【第3回】 性の多面性・多様性 【第4回】 「性差」と「個人差」・ジェンダースtereotype 【第5回】 家族とジェンダー（1） 性別役割分業 【第6回】 家族とジェンダー（2） 三歳児神話と子育て 【第7回】 家族とジェンダー（3） 選択的夫婦別姓 【第8回】 家族とジェンダー（4） 同性婚 【第9回】 学校とジェンダー（1） 隠れたカリキュラム 【第10回】 学校とジェンダー（2） 男女共学と別学 【第11回】 歴史の中のジェンダー（1） 近代社会とジェンダー 【第12回】 歴史の中のジェンダー（2） フェミニズム運動 【第13回】 これからの課題（1） 男性のあり方 【第14回】 これからの課題（2） 性の多様性とジェンダー平等 【第15回】 まとめ 期末レポート
使用テキスト	指定しません。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前には、その回のテーマに関わるテーマについて調べる。ネット検索だけではなく、可能な限り文献にあたる。（60分） ・授業後は、授業の内容について整理し、自分の考えをまとめることが望ましい。（30分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	質問などがあればメールでお願いします。（アドレスは授業開始時に伝えます）
留意事項	・定員を越えた場合は、抽選を行うことがあります。 ・多人数の授業になることが予想されますが、ほぼ毎回グループワークを行います。グループは毎回変えて、できるだけ多くの人と話し合えるようにします。 必ず指定されたグループの座席に座って、主体的に参加をしてください。

科目コード	10135	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	家族を考える				
担当者	友野 清文				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	ほぼ毎回グループワーク（話し合い）と発表を行います。ともに学び考え合うことによる協働学習を目指します。	
授業の概要					
みなさんにとって「家族」とは何でしょうか。経験の中で家族のイメージはあるにしても、「家族とは何か」について説明することは難しいかもしれませんが。「家族の役割・機能」についても同様でしょう。 家族の姿は時代や社会によって大きく異なっており、これからも変わっていきます。例えば、子育ては現在では家族の中心的機能（役割）とされていますが、これは近代社会になってから強調されたことでした。 この授業では家族の歴史を振り返りながら、現在と将来の家族のあり方を一緒に考えていきます。					
キーワード					
家族 歴史 多様性 家庭教育					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業の内容を踏まえて、家族の歴史と現状、家族ををめぐる諸課題について理解し、説明することができる。		
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	家族の問題に関心を持ち、これからの家族のあり方について自分なりに考えていこうとする姿勢を持つ。また将来自分自身が家族を築く選択をした場合、どのような家族にしたいのかを思い描けるようにする。		
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、自ら参考資料や文献を参照したり、周囲の人と意見交換をしたりしていることが、リアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。家族のあり方は多様であり、「正しい家族」は存在しないことから、個人のプライバシーに配慮し、互いの存在と人権を尊重しながら、自由な意見交換をするようお願いしたい。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回	イントロダクション 授業のねらいと概要
	第2回	家族とは何か
	第3回	家族の歴史（1）：前近代の家族
	第4回	家族の歴史（2）：近代家族の成立
	第5回	家族の歴史（3）：現代社会の家族
	第6回	子どもと家族（1）：育児のあり方
	第7回	子どもと家族（2）：家庭教育
	第8回	子どもと家族（3）：学校教育と家族
	第9回	結婚と家族（1）：晩婚化・非婚化
	第10回	結婚と家族（2）：選択的夫婦別姓・同性婚・事実婚
	第11回	家族をめぐめる課題（1）：DV（ドメスティック・バイオレンス）
	第12回	家族をめぐめる課題（2）：児童虐待
	第13回	家族をめぐめる課題（3）：離婚と親権
	第14回	家族のこれから（1）：多様化
	第15回	家族のこれから（2）：社会の中の家族
	学期末レポート	
使用テキスト	指定しません。	
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前には、その回のテーマに関わるテーマについて調べる。ネット検索だけではなく、可能な限り文献にあたる。（60分） ・授業後は、授業の内容について整理し、自分の考えをまとめることが望ましい。（30分） ・参考文献等は授業内で適宜紹介する。	
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。	
授業時間外の連絡手段	質問などがあればメールでお願いします。（アドレスは授業開始時に伝えます）	
留意事項	・定員を越えた場合は、抽選を行うことがあります。 ・多人数の授業になることが予想されますが、ほぼ毎回グループワークを行います。グループは毎回変えて、できるだけ多くの人と話し合えるようにします。 必ず指定されたグループの座席に座って、主体的に参加をしてください。	

科目コード	10140	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地域を学ぶ a				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題	
授業の概要					
【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型					
当地域・茨城県について、一般論だけでなく実例を通した様々な視点から多角的に学修します。 なお、講師は隣県・福島県の出身ですが、自ら経営している会社の営業活動、報道記者・ラジオパーソナリティー（元・L u c k y F M茨城放送、現・C R T 栃木放送）等の放送実務、東日本大震災復興関連事業〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕などを通して、県内44市町村全てに出向いた経験を生かして、次のような内容で授業を進めます。 1. 茨城県の姿を俯瞰し、おおまかに地域の現状を把握する。 2. 特徴的なテーマを通して、地域の姿を考察する。 3. 現状や課題を把握することで他地域との比較も可能になり、自らの地域について未来志向の目線を持てるようになる。					
キーワード					
地域、茨城県、県央、県北、鹿行、県南、県西、都心100キロ圏、北関東、都道府県魅力度ランキング、南北問題、南北格差、原発、臨海工業開発、臨海工業地帯、水戸、交通、鉄道、農林水産、農業、水産、海面、内水面、市街地、空洞化、つくば、企業					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	地域についての基本的な知識や考え方について、実例を含め多角的な視点を通して学び、未来志向の目線で、地域課題の解決などを主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。			
評価割合	0%		
▼その他			
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等を行います。 主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要があるため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。			
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取る可否を含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。			
評価割合	0%		

★地域についての総論★	
【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・「地域」の見方・読み方	
【第2回】茨城県の「姿」「立ち位置」「地域別考察」	
※茨城県について俯瞰し考察します。また、これまで直面してきた災害についても論じます。	
※県内5地域（県央、県北、鹿行、県南、県西）ごとにその姿について考察します。	
【第3回】茨城県にとっての「グローバル化」を考察	
※外国人と本県の関わりについて様々な側面より考察します。	
※いわゆる「インバウンド」の影響（光と影）について考察します。	
★テーマ別（特徴〔特長〕や課題別）による茨城県の考察★	
【第4回】都心100キロ圏（県都ベース）という宿命	
※他の北関東2県（栃木・群馬）同様、首都・東京から決して遠くない立地にあることのメリット・デ	

授業計画	メリットについて考察します（比較を含む）。 【第5回】都道府県魅力度ランキングにおける「低評価」と「本県の発信力」 ※類似評価を受けている他県との比較などを含め、現状と理由などについて考察します。 ※「本県の発信力」について様々な側面より考察します。 【第6回】いわゆる「南北問題」「県都スルー型問題」 ※おおむね国道125号を境にそれぞれ南北でみられる格差や、特に交通網において、各地域が独立して東京との最適ルートが存在していることについて考察します。 【第7回】地場産業の栄枯盛衰と経産省所管分野による地域形成 ※社会経済環境の変化による地場産業や地域の栄枯盛衰と、原発・臨海工業開発など、主に経産省の所管分野による開発・地域形成などについて考察します。 【第8回】県都・水戸市の変遷にみる「社会構造の変化」 ※かつては、旧国鉄による鉄道の要衝として栄えたが、近年、中心市街地の空洞化など都市の衰退に直面する同市について考察します。 【第9回】隣県と結びつきが強い地域・市町が存在 ※県央以外の4地域全てでその傾向が見られる現状と課題について考察します。 【第10回】つくば開発 ※つくば地域（その周辺圏を含む）について、国内稀に見るケースとなった地域開発、そして現状や影響などについて考察します。 【第11回】決して脆弱ではない「交通インフラ」 ※高速道路4路線、全国2位の道路総延長距離、鉄道15路線（停車駅は無いが県内を通過している東北新幹線を含む。）、空港、港湾（国際・重要港湾）など交通インフラは脆弱とはいえないが、「便利なゆえの」影響などについて考察します。 ※交通インフラの整備が地域開発に影響していることについて考察します。 【第12回】全国第3位の農業県（産出額ベース）・全国上位の水産業（海面・内水面とも、生産量ベース。） ※恵まれた環境と大市場・東京に近い立地を生かして農業水産業は地場産業の一角を占めているが、その現状や課題について考察します。 【第13回】企業活動を通して見る「茨城の姿」 ※特徴的な企業行動・活動の実例を通して考察します。 【第14回】「茨城の可能性」 ※既存の環境や地域資源の利活用という視点で考察します。 【第15回】まとめ ※時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
使用テキスト	校内（教室内）にはフリーwifiが整備されていますので、DXへの適応とペーパーレス、IoT環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。 ※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありますがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	インターネット等を通して、地域についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。
授業時間外の連絡手段	メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。
留意事項	前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。 また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。

科目コード	10146	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	ライフサイクルと健康				
担当者	原島 利恵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜6限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	03. 実践・実技・体験 07. 発表 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
「健康とは何か」について、健康に関する概念や指標、発達段階から捉えるだけでなく、基本的な生活習慣と健康との関連について学修する。特に「生活」ということばの意味を考えた上でライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズと生活について理解し、人間の心と体を知る意味と人間の理解、心の健康について学修する。また、さまざまな情報があふれるなかで「健康である」とはどのようなことなのか科学的認識を育てる。さらに、生活習慣病の予防や自己の健康管理について考える。					
キーワード					
健康、健康指標、生活習慣、疾病予防、健康増進					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	1. 健康の概念・健康指標および健康の捉え方とライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズについて理解できる。 2. 生活と健康との関連や講義のテーマにあげたトピックスから健康に関する知識や技術について説明できる。		
評価方法	試験 レポート 課題	評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	1. 自らの健康について振り返る。 2. 自己の生活を振り返り、健康状態を考察し、論理的かつ簡潔に自らの健康管理方法について表現することができる。		
評価方法	レポート 課題	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア活動			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
家族や友人の健康についての関心を寄せ、周囲の人々と共に疾病予防や健康の保持・増進についての方策を考えられるとよい。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 健康状態と生活 「生活」の意味（原島） 第2回 健康のとらえ方と日本人の健康観（原島） 第3回 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ（原島） 第4回 人間の心と体を知る意味と人間の理解①子どもの理解（原島） 第5回 人間の心と体を知る意味と人間の理解②成人の理解（原島） 第6回 人間の心と体を知る意味と人間の理解③高齢者の理解（原島） 第7回 人間の心と体を知る意味と人間の理解④家族の理解（原島） 第8回 健康状態の理解と健康の維持・増進（原島） 第9回 健康状態の理解①健康を脅かす要因と健康生活の急激な破綻（原島） 第10回 健康状態の理解②慢性病とともに生きる人を知る（原島） 第11回 健康状態の理解③障害がある人とリハビリテーション（原島） 第12回 健康状態の理解③人生の最期の時を支えるということ（原島） 第13回 さまざまな健康レベルにある人（原島） 第14回 これからの私の健康生活について（原島） 第15回 講義のまとめ（原島）
使用テキスト	授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項

自分の生活を振り返りながら、授業にのぞむこと。
※ teamsのチームコードが提示された時は必ずチームに参加して下さい。

科目コード	10148	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地球環境と人間 a				
担当者	大塚 雅哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題	
授業の概要					
地球温暖化にともなう気候変動など、人間活動が地球環境に与える影響が顕著になっている。我々を取り巻く生態系にも影響が及んでおり、多様な生命を育む豊かな地球環境を維持し、限界を超えた急激な変化を回避することが喫緊の課題である。地球環境に関する最近のデータや世の中の動きから現在の置かれている状況と課題を認識するとともに、かけがえのない地球環境を守っていくにはどうすれば良いか、これから求められる人間行動について考えていきます。特に、二酸化炭素の主要な排出源であるエネルギーの問題や、地球環境に与える影響の大きい都市化や食の問題についても取り上げ、人間活動を含めたトータルな地球環境システムとしての在り方を検討していきます。エネルギー研究の実務経験を生かし、関連した事例を紹介しながら理解を深めていきます。					
キーワード					
地球環境システム、生態系、人間活動、気候変動、プラネタリバウンダリ、エネルギー、都市、食、行動変容					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	地球環境と人間に関する歴史と現状を理解するとともに、これを踏まえて、今日的課題を検討、考察し、まとめることができる。		
評価方法	レポート提出	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	地球環境の維持に向けてこれからの人間はどうあるべきか、個人として今後の地球環境問題にどう取り組むかなど、関連する多くの情報を集めて自らの考えを整理してまとめることができる。		
評価方法	レポート提出	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業への出席状況、提出物の内容をもとに評価する。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
特に評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。 但し、レポート提出に際して他人の文章を写すなどの不正が見られた場合には減点対象とする。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回： 導入（地球環境、現代的課題） 第2回： 地球の歴史（誕生から豊かな環境の形成へ） 第3回： 人類発展の歴史（発展と影、公害から地球環境汚染へ、人新世） 第4回： 生態系と物質循環（生物多様性、水、大気、炭素、窒素、リン） 第5回： 気候変動（地球環境システム、人的影響） 第6回： 地球環境を維持するために（プラネタリーバウンダリ、SDGs） 第7回： 火の利用（熱利用技術、火力発電、環境負荷） 第8回： 原子力の利用（発電のしくみ、安全、放射線、核燃料サイクル、放射性廃棄物） 第9回： 再生可能エネルギー・水素の利用（風力・太陽光・水素など、利用拡大に向けた課題） 第10回： トータルエネルギーシステム（電力システムの安定制御、全体最適化） 第11回： 都市と環境（都市化、スマートシティ、リサイクル、国内外の取り組み） 第12回： 食、土地、水（食料生産と地球環境、土地・水の利用） 第13回： 地球環境と社会科学（政治、経済、社会） 第14回： グローバルな動向（地球環境問題への対応、IPCC/IPBES） 第15回： 日本のこれから（環境基本計画、エネルギー基本計画、求められる人間行動） （多少の変更あり）
使用テキスト	授業で使用する資料については全て電子ファイルで配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【参考文献】 1. オーウェン・ガフニー/ヨハン・ロックストローム著：地球の限界、河出書房新社（2022年） 2. 環境省：環境基本計画、Web入手可 3. 資源エネルギー庁：エネルギー基本計画、Web入手可 4. IEA：World Energy Outlook、Web入手可（毎年10月頃最新刊発行） 【予習・復習について】 予習：その回のテーマに関連する資料を探して目を通し、興味を持った点や疑問点などを整理してから授業に臨むと良い。（90分） 復習：講義後に良く復習し、自ら問題提起してより深く調べ、考察し、理解を深め、その内容を最終レポートに向けてまとめておく。（90分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	IC-MAILを用いて連絡ください。
留意事項	・授業前日までに資料(pdf)をIC-UNIPAの「授業資料」にアップロードします。授業中にプロジェクタ投影もしますが、電子端末を持参して各自参照できるようにしておくとう良いでしょう。 ・レポートについてはIC-UNIPAの「課題管理」機能を利用して提出物を確認します。

科目コード	10148	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地球環境と人間 b				
担当者	大塚 雅哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題	
授業の概要					
地球温暖化にともなう気候変動など、人間活動が地球環境に与える影響が顕著になっている。我々を取り巻く生態系にも影響が及んでおり、多様な生命を育む豊かな地球環境を維持し、限界を超えた急激な変化を回避することが喫緊の課題である。地球環境に関する最近のデータや世の中の動きから現在の置かれている状況と課題を認識するとともに、かけがえのない地球環境を守っていくにはどうすれば良いか、これから求められる人間行動について考えていきます。特に、二酸化炭素の主要な排出源であるエネルギーの問題や、地球環境に与える影響の大きい都市化や食の問題についても取り上げ、人間活動を含めたトータルな地球環境システムとしての在り方を検討していきます。エネルギー研究の実務経験を生かし、関連した事例を紹介しながら理解を深めていきます。					
キーワード					
地球環境システム、生態系、人間活動、気候変動、プラネタリバウンダリ、エネルギー、都市、食、行動変容					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	地球環境と人間に関する歴史と現状を理解するとともに、これを踏まえて、今日的課題を検討、考察し、まとめることができる。		
評価方法	レポート提出	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	地球環境の維持に向けてこれからの人間はどうあるべきか、個人として今後の地球環境問題にどう取り組むかなど、関連する多くの情報を集めて自らの考えを整理してまとめることができる。		
評価方法	レポート提出	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業への出席状況、提出物の内容をもとに評価する。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
特に評価対象としない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。 但し、レポート提出に際して他人の文章を写すなどの不正が見られた場合には減点対象とする。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回： 導入（地球環境、現代的課題） 第2回： 地球の歴史（誕生から豊かな環境の形成へ） 第3回： 人類発展の歴史（発展と影、公害から地球環境汚染へ、人新世） 第4回： 生態系と物質循環（生物多様性、水、大気、炭素、窒素、リン） 第5回： 気候変動（地球環境システム、人的影響） 第6回： 地球環境を維持するために（プラネタリーバウンダリ、SDGs） 第7回： 火の利用（熱利用技術、火力発電、環境負荷） 第8回： 原子力の利用（発電のしくみ、安全、放射線、核燃料サイクル、放射性廃棄物） 第9回： 再生可能エネルギー・水素の利用（風力・太陽光・水素など、利用拡大に向けた課題） 第10回： トータルエネルギーシステム（電力システムの安定制御、全体最適化） 第11回： 都市と環境（都市化、スマートシティ、リサイクル、国内外の取り組み） 第12回： 食、土地、水（食料生産と地球環境、土地・水の利用） 第13回： 地球環境と社会科学（政治、経済、社会） 第14回： グローバルな動向（地球環境問題への対応、IPCC/IPBES） 第15回： 日本のこれから（環境基本計画、エネルギー基本計画、求められる人間行動） （多少の変更あり）
使用テキスト	授業で使用する資料については全て電子ファイルで配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【参考文献】 1. オーウェン・ガフニー/ヨハン・ロックストローム著：地球の限界、河出書房新社（2022年） 2. 環境省：環境基本計画、Web入手可 3. 資源エネルギー庁：エネルギー基本計画、Web入手可 4. IEA：World Energy Outlook、Web入手可（毎年10月頃最新刊発行） 【予習・復習について】 予習：その回のテーマに関連する資料を探して目を通し、興味を持った点や疑問点などを整理してから授業に臨むと良い。（90分） 復習：講義後に良く復習し、自ら問題提起してより深く調べ、考察し、理解を深め、その内容を最終レポートに向けてまとめる。（90分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	IC-MAILを用いて連絡ください。
留意事項	・授業前日までに資料(pdf)をIC-UNIPAの「授業資料」にアップロードします。授業中にプロジェクタ投影もしますが、電子端末を持参して各自参照できるようにしておくとう良いでしょう。 ・レポートについてはIC-UNIPAの「課題管理」機能を利用して提出物を確認します。

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 a				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題	
授業の概要					
【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型					
災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をういて学修します。 なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティ等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。 1. 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。 2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。 3. 災害として扱われる感染症 新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。 4. 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積極的に論じます。					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。			
評価割合	0%		
▼その他			
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等は行います。 主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要があります。そのため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。			
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取る可否を含め試行錯誤が続いています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。			
評価割合	0%		

授業計画	【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」） 【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など） 【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿〔地震・津波〕） 【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿〔福島第一原発事故〕） 【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」） 【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓、これまでの振り返り） 【第7回】地球環境の変化と災害の関係性 【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク） 【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害〔復旧・復興を含む〕） 【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害） 【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響） 【第12回】災害級の感染症 【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応 【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」 【第15回】まとめ ※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
使用テキスト	校内（教室内）にはフリーw i f i が整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。 ※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありますがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的揭示ではなく話的講義が中心です。
授業時間外の連絡手段	メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。
留意事項	前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。 また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 b				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜6限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題	
授業の概要					
【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型					
災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をういて学修します。 なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティ等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。 1. 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。 2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。 3. 災害として扱われる感染症 新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。 4. 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積極的に論じます。					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。			
評価割合	0%		
▼その他			
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等は行います。 主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要がありますため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。			
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取る可否を含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。			
評価割合	0%		

授業計画	【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」） 【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など） 【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿〔地震・津波〕） 【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿〔福島第一原発事故〕） 【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」） 【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓、これまでの振り返り） 【第7回】地球環境の変化と災害の関係性 【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク） 【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害〔復旧・復興を含む〕） 【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害） 【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響） 【第12回】災害級の感染症 【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応 【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」 【第15回】まとめ ※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
使用テキスト	校内（教室内）にはフリーw i f i が整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。 ※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありますがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的揭示ではなく話的講義が中心です。
授業時間外の連絡手段	メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。
留意事項	前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。 また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 Ⅱ				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型					
災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をを用いて学修します。 なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティ等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。 1. 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。 2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。 3. 災害として扱われる感染症 新型コロナウイルスや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。 4. 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積極的に論じます。					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。			
評価割合	0%		
▼その他			
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、成績評価を目的とした出席確認は実施せず、学期末課題等の評価をもとに成績評定を行います。ただし、学則に定められた出席に関する規定を満たしていることを確認するための調査等は行います。 主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要がありますため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。			
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取る可否を含め試行錯誤が続いています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。			
評価割合	0%		

授業計画	【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」） 【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など） 【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿〔地震・津波〕） 【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿〔福島第一原発事故〕） 【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」） 【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓、これまでの振り返り） 【第7回】地球環境の変化と災害の関係性 【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク） 【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害〔復旧・復興を含む〕） 【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害） 【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響） 【第12回】災害級の感染症 【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応 【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」 【第15回】まとめ ※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
使用テキスト	校内（教室内）にはフリーw i f i が整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。 ※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。
授業時間外の連絡手段	メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。
留意事項	前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。 また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。

科目コード	10153	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	宇宙の探究 a				
担当者	神谷 宏治、池田 博、夏目 恭平				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17. 発問と応答	
授業の概要					
宇宙について人類が研究してきた歴史的な流れを習得する。 ニュース等で報じられる地球環境やエネルギー問題を理解する。 南極や北極における人類の活動や低温・超伝導という最新の科学現象について理解を深める。					
キーワード					
天文学、宇宙開発、地球温暖化、エネルギー、南極北極、超伝導重力計					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で取り上げた重要キーワードを暗記し80%解答できる。		
評価方法	講義ごとの小テスト。 学期末筆記試験。	評価割合	80～90%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	宇宙、環境、エネルギー問題に対して自分の専門性を活かした提案ができる。		
評価方法	学期末筆記試験。	評価割合	10～20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
自主的学習により成果が認められた場合は、上記「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
以下の対象者は減点対象とする。 1. 遅刻者 2回で1回欠席とする。 2. 早退者 2回で1回欠席とする。 3. 授業中の私語 4. 人権侵害、差別的発言をした者			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 低温ふしぎ現象 第2回 南極観測 第3回 北極観測 第4回 超伝導現象 第5回 超伝導重力計第6回 人類と宇宙の歴史 第7回 人類の宇宙進出までの道のり 第8回 太陽系の探査とボイジャー計画 第9回 銀河系、星雲、地球外生命 第10回 宇宙の誕生、インフレーション、ビックバン 第11回 宇宙開発の現在 第12回 これからの宇宙開発 第13回 地球温暖化とは-世界の取り組み- 第14回 夢の核融合エネルギー 第15回 再生可能エネルギーとその課題 定期試験
使用テキスト	なし。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業計画にある各回のテーマについて関心を持っておくこと。 宇宙、エネルギー問題、地球環境に関するニュースを意識しておくこと。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応する。
授業時間外の連絡手段	学務部等に連絡。
留意事項	履修人員は100人程度。 超過した場合は上級生優先、場合によっては抽選を行う。 抽選は初回授業で実施。 初回授業に来ていない場合は履修を認めない。 初回授業に公欠事由のあるものは事前に連絡必要。

科目コード	12078	科目ナンバリング	EN20C39K	主な使用言語	日本語
授業名	英語文学概論A				
担当者	菅野 弘久				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
イギリス文学を文化的事象のひとつとして、イギリスの歴史・社会・文化との関連から通時的・共時的に捉え、その豊饒な文学的世界について理解を深めることを目標にします。各時代を代表する作家の作品を原文（抜粋）で読んで、その実際を確かめながら授業を進めます。					
キーワード					
イギリス文学, ルネサンス, 古典主義, ロマン主義, モダニズム, 文化史, 観念史					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	古代から現代までのイギリス文学の主要作品について、その内容と文学的価値を時代の文化的影響（関係性）のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	指定された文学テキストについて、授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し、その内容を適切な文章で表現できる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や厳重注意の対象とする。			
評価割合	0%		
▼その他			
とくになし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回「古英語・中英語の文学（15世紀まで）」 〔古英語, 中英語, 『ベオウルフ』, 古英詩〕
	第2回「古英語・中英語の文学（15世紀まで）」 〔ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』, ウィリアム・ラングランド〕
	第3回「ルネサンスの文学（15世紀-16世紀）」 〔トマス・モア, フィリップ・シドニー, エドモンド・スペンサー〕
	第4回「演劇の時代（16世紀後半）」 〔トマス・キッド, クリストファー・マローウ〕
	第5回「ウィリアム・シェイクスピアの時代（1564-1616）」 〔ウィリアム・シェイクスピア〕
	第6回「清教徒革命と共和制（17世紀前半）」 〔フランシス・ベーコン, ベン・ジョンソン, 形而上派詩人, 王党派詩人〕
	第7回「王政回復期の文学（17世紀後半）」 〔ジョン・ミルトン, ジョン・バニヤン, ジョン・ドライデン〕
	第8回「18世紀の散文, 詩, 演劇」 〔ジョナサン・スウィフト, アレキサンダー・ポープ, サミュエル・ジョンソン〕
	第9回「小説の誕生と成長（18世紀）」 〔ダニエル・デフォー, サミュエル・リチャードソン, ローレンス・スターン, ジェイン・オースティン〕
	第10回「ロマン主義時代の光と影（19世紀前半）」 〔ウィリアム・ブレイク, ウィリアム・ワーズワス, S・T・コールリッジ, P・B・シェリー, ジョン・キーツ〕
	第11回「ヴィクトリア朝の散文と詩（19世紀後半）」 〔アルフレッド・テニソン, ロバート・ブラウニング, ジョン・ラスキン, ウォルター・ペイター〕
	第12回「ヴィクトリア朝の小説（19世紀後半）」 〔チャールズ・ディケンズ, シャーロット・ブロンテ, エミリー・ブロンテ, オスカー・ワイルド, トマス・ハーディ〕
	第13回「20世紀の詩と演劇（20世紀前半）」 〔G・M・ホプキンス, W・B・イエイツ, T・S・エリオット, W・H・オーデン〕
	第14回「20世紀の小説（20世紀前半）」 〔ジョセフ・コンラッド, ヴァージニア・ウルフ, ジェイムズ・ジョイス, E・M・フォスター, D・H・ロレンス〕
	第15回「戦後の文学（20世紀後半）」 〔ディラン・トマス, ジョージ・オーウェル, サミュエル・ベケット, カズオ・イシグロ, イアン・マキューアン〕
	定期試験
使用テキスト	とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習では、シラバスを参照して、授業で取り上げる作家や時代について概要をつかむ（90分）。復習では、資料をもとに授業内容を整理するとともに、興味をもった作家を中心にその作品にふれてみる（はじめは日本語訳、次にできれば原文で）（90分）。 参考書として、まずは次のものを－イギリス文学初心者には読みやすい、ジョン・サザーランド著（河合祥一郎訳）『若い読者のための文学史』（すばる舎、2020年）。イギリス文学史のかくれた名著、齋藤美洲編著『イギリス文学史序説』（中教出版、1978年）。小説家の書いた文学的香りがして写真も豊富な、マーガレット・ドラブル著（奥原宇・丹羽隆子訳）『風景のイギリス文学』（研究社、1993年）。内容が詳細かつ包括的で図版も多く盛り込んだ、バット・ロジャーズ編（櫻庭信之監訳）『図説イギリス文学史』（大修館書店、1990年）。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	随時IC-Mail（hiro-kanno@icc.ac.jp）により対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。
留意事項	この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード	12079	科目ナンバリング	EN20C42K	主な使用言語	日本語
授業名	児童文学（英語圏）				
担当者	菅野 弘久				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
英語圏における児童文学の展開を具体的な作品を読みながら確認します。語学的に正しく作品を読むこと、次に想像力をふくらませながら作品を読むこと、とくにこの2点を意識して読んでいきます。原文で作品を読める語学力を養うとともに、英語圏の児童文学の背景にある歴史や文化についても学んでいきます。					
キーワード					
イギリス文学, 児童文学, 文化史					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	英語圏の児童文学を読んで味わえるための英語力を身につける。児童文学の文化的背景について理解し、それを敷衍して説明できる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	文学作品を読んで、その主題を文化的・歴史的背景に照らして分析し、その内容を適切な文章で表現できる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や厳重注意の対象とする。			
評価割合	0%		
▼その他			
とくになし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回：児童文学とは何か 第2回：チャールズ・キングズリー『水の子どもたち』 第3回：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』 第4回：ジョージ・マクドナルド『北国のうしろの国』 第5回：ビアトリクス・ポター『ピーター・ラビットのおはなし』 第6回：ケネス・グレーム『たのしい川べ』 第7回：パメラ・L・トラヴァース『風になってきたメアリー・ポピンズ』 第8回：ジェイムズ・マシュー・バリ『ピーター・パンとウェンディ』 第9回：アラン・アレクサンダー・ミルン『クマのプーさん』 第10回：マイケル・ボンド『くまのパディントン』 第11回：フランシス・バーネット『秘密の花園』 第12回：ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』 第13回：C・S・ルイス『ライオンと魔女と衣装だんす』 第14回：J・R・R・トールキン『ホビットの冒険』 第15回：J・R・R・トールキン『指輪物語』 定期試験
使用テキスト	とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習では授業で読むテキストの当該箇所を、辞書を使って語学的に不明な点をなくしておくこと（90分）。復習では解説した語彙・表現を整理して使えるようにすること（90分）。またできるだけ児童文学作品を読む機会（日本語訳可）を増やすこと。参考書として、瀬田貞二・猪熊葉子・神宮輝夫『英米児童文学史』（研究社、1971）、谷本誠剛『児童文学入門』（研究社、1995）、日本イギリス児童文学会編『英米児童文学ガイド』（研究社、2001）。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	随時IC-Mail（hiro-kanno@icc.ac.jp）により対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。
留意事項	この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード	12165	科目ナンバリング	EN10C04K	主な使用言語	日本語・英語
授業名	ホスピタリティ論				
担当者	澤井 萌				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	08. 協同学修 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答	
授業の概要					
「ホスピタリティ」は、いわゆるホスピタリティ産業だけに関係する概念ではなく、私たちが日々の暮らしのなかで大切にしなければならない「相手を思いやる気持ち」と深く関係している考え方です。本授業の前半では、幅広い意味でのホスピタリティの概念を学び、中盤では、さまざまな事例に触れ、そして後半では、ホスピタリティの適用と実践について、学んでいきます。授業は、ワークシートを用いた受講生間でのディスカッションを交えながら、実務家教員の民間企業での経験を共有しながら、進めていきます。					
キーワード					
ホスピタリティ、おもてなし、サービス、ホスピタリティ産業					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	①ホスピタリティの意味・役割・価値について理解し、自分の言葉で説明することができる ②観光業におけるホスピタリティのあり方について自分の考え方を持つことができる		
評価方法	課題・レポート	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	①ホスピタリティについての自らの考えを持ち、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。 ②ホスピタリティについての自らの考えを持ち、日常生活・社会生活のなかで、行動に移すことができる。 ③クラスメートの意見に傾聴し、その内容の概ね80%を理解することができる。		
評価方法	グループ発表① グループ評価：10% 個人評価：10% グループ発表② グループ評価：10% 個人評価：10% ミニッツペーパーによる授業へのフィードバック(15回)：20% 既定の文字数に満たない場合は評価の対象外とする。 フィードバックの提出期限は原則同日の23:59とする。	評価割合	60%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業への取り組み姿勢、授業への貢献度（発言、質問）を評価対象とする。			
評価割合	※思考・判断・表現と併せて評価する。		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	- オリエンテーション - ホスピタリティとは何か（定義・ホスピタリティ産業概観） - ホスピタリティにまつわる議論 “お客様は神様か？” - ホスピタリティと文化 茶道の精神と茶室の仕掛け - ホスピタリティとブライダル産業 - ホスピタリティとテーマパーク「シン・かみね公園プロジェクト」 - グループ発表準備 - グループ発表と質疑応答（1） - グループ発表と質疑応答（2） - ホスピタリティと旅行会社（市場分析） - ホスピタリティと旅行会社（ケーススタディ） - グループ発表準備 - グループ発表と質疑応答（1） - グループ発表と質疑応答（2） - あなたのホスピタリティの定義・全体のまとめ
使用テキスト	使用テキストは毎回資料及びワークシートを共有する。 事前に内容を理解し、議論ができる準備を整えてから講義に参加すること。

予習・復習の ポイントと 参考文献・資料等	予習については、各授業時に指示します。教科書の学習範囲を読み、指示する課題（ワークシート）に取り組んでから、授業に出席する必要があります。（120分） 授業で使用するパワーポイントスライドは、Microsoft Teamsに掲載します。 授業後の復習では、スライドを参考にしながら、自分のノートをまとめ（120分）、レポート課題に備えてください。 また、日頃から、講義内容に関連する新聞記事やニュース、ドキュメンタリー番組などに注目し、批判的に読む・見ることで、「ホスピタリティ」に対する自分なりの考えをもつように努めてください。 参考文献 ① 飯島 好彦 他 著『ホスピタリティ産業論』、創成社（2021 年） ISBN: 978-4-7944-2592-8 ② 地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修 英語テキスト初級 https://inboundkenshu.com/assets/pdf/training_materials/english_text_beginner.pdf
障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡 手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	c. この授業は英語と日本語の両方で行われる。 毎回の講義では教員が頻繁に学生の考えや意見を求める場面がある。 また小グループでのディスカッションや発表も複数回行うので積極的に発言する姿勢が求められる。 小グループは頻繁にメンバーを変更するため、物おじせず他のメンバーと協働するよう努める。

科目コード	12180	科目ナンバリング	EN20C08E	主な使用言語	英語と日本語
授業名	グローバルイングリッシュ				
担当者	野田 知子				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	07. Presentation 08. Group Work 16. Reflection Paper	
授業の概要					
This course aims to broaden students' intercultural understanding by learning cultural aspects of English spoken in many parts of the world. Also, students will be able to learn various aspects of World Englishes such as pronunciation, syntax, vocabulary, grammar, etc. by dealing with audio and visual materials					
キーワード					
World Englishes, Globalization, International languages, inter-cultural understanding					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	Students will be able to recognize the importance of English as a lingua franca by learning the history, culture, language, and people's lives in countries where English is used as an official, second, or foreign language. Students will be able to understand the differences of English in those countries, such as pronunciation, syntax, vocabulary, grammar, etc.		
評価方法	Presentation Journals Comprehension Quiz	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	Students will be able to find and recognize the characteristics of World Englishes spoken in many parts of the world. Also, they will be able to search for information about the countries covered in the course and give a short presentation in English.		
評価方法	Presentation Journals Comprehension Quiz	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
Students will be able to actively engage in class by cooperating with their classmates in speaking and listening tasks assigned in pairs, small groups, or individually.			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
Active engagement with the course materials, activities, and assignments is required.			
評価割合	0%		
▼公正性			
Students are expected to be fair and respectful to one another. Also, they must demonstrate integrity and honesty in all their work.			
評価割合	0%		
▼その他			
Not applicable			
評価割合	0%		

授業計画	第01回: Course Overview, Introduction 第02回: Chapter 1 India 第03回: Chapter 2 the Philippines 第04回: Chapter 3 Thailand 第05回: Presentation, Review 第06回: Chapter 4 Vietnam 第07回: Chapter 5 Korea 第08回: Chapter 7 Italy 第09回: Chapter 8 Denmark 第10回: Presentation, Review 第11回: Chapter 10 Turkey 第12回: Chapter 12 South Africa 第13回: Chapter 13 Brazil 第14回: Chapter 14 Peru 第15回: Presentation, Course wrap-up
使用テキスト	Berkin, S. & Kobayashi, M. (2021). World Adventures. KINSEIDO.
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	Students are required to work on pre- and post-tasks. 参考文献: 大石晴美 (編) (2023) 「World Englishes入門- グローバルな英語世界への招待」 昭和堂.
障がいのある履修者への対応	Students with special needs will receive any necessary help. Please contact the office of Student Affairs first.
授業時間外の連絡手段	During the office hours or by email. The details will be announced in the first class.

留意事項

- This class will be taught primarily in English with explanation in Japanese if necessary.
- Please bring a portable electronic device that can connect to the Internet (laptop PC, tablet).
- Microsoft Teams will be used for announcement, communication, assignment distribution, and submission.
- Your attendance is essential for your success in this course.

科目コード	13017	科目ナンバリング	PE10C07K	主な使用言語	日本語
授業名	教育統計学				
担当者	佐々木 隆宏				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜6限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	発表	
授業の概要					
教育に携わる者にとって、教育に関するデータをもとに導かれた結論を批判的に解釈することや、あるいは教育データから得られる結論を他人に説明することは必須である。また、日常的教育活動において、児童・生徒の実態を捉え、自らの教育活動に活かすことも必要である。本授業では、そのために必要な知識・技能を学ぶ。小学校や中学校で学習した統計に関する知識の復習から始めて、さらに発展した内容も基礎から学ぶことで、教師に求められる統計の資質・能力を身に付けることを目的とする。					
キーワード					
教育統計学, 記述統計, 推測統計					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	統計の知識・技能を身に付ける		
評価方法	小テストと課題	評価割合	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。		
評価方法	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。	評価割合	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。
▼学修に主体的に取り組む態度			
評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。			
評価割合	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。		
▼実践的ボランティア			
評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。			
評価割合	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。		
▼公正性			
評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。			
評価割合	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。		
▼その他			
なし			
評価割合	評価：毎回の授業の小テスト（50％）、授業中に出す課題（40％）、授業に対する態度（10％）をもとに総合的に判断する。		

授業計画	第1回：オリエンテーション～教育データの読み書き～ 第2回：記述統計の基礎Ⅰ～小学校・中学校までの統計の復習～ 第3回：記述統計の基礎Ⅱ～数学Ⅰ「データの分析」の復習～ 第4回：場合の数と確率の基礎 第5回：推測統計の基礎Ⅰ～確率変数と確率変数の期待値と標準偏差～ 第6回：推測統計の基礎Ⅱ～確率分布～ 第7回：推測統計の基礎Ⅲ～区間推定～ 第8回：推測統計の基礎Ⅳ～検定～ 第9回：多変量解析の基礎Ⅰ～重回帰分析の基礎～ 第10回：多変量解析の基礎Ⅱ～主成分分析と因子分析の基礎～ 第11回：質的データに対する統計の基礎 第12回：教育データの読み書き①～日常の成績データ等の読み書き～ 第13回：教育データの読み書き②～教育資料の読み書き～ 第14回：教育データの読み書き③～OECD資料の読み～ 第15回：学習のまとめ
使用テキスト	授業中に資料を配付する
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	なし
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。
授業時間外の連絡手段	研究室において対応します。曜日・時限は授業中にお知らせします。
留意事項	パソコンを使用します。3年次生以上でPCをもっていない学生は相談してください。

科目コード	13554	科目ナンバリング	PE11C04K	主な使用言語	日本語
授業名	地域社会研究Ⅰ				
担当者	鈴木 克彦				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	08：協同学習	
				09：実地調査	
				17：発問と回答	
授業の概要					
私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市の南部地域の観察や、茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようになることを目的とする。また、地域調査も実施する中から、小中学校における社会科教育および総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。					
キーワード					
地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科における地域教材開発					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で学んだ地域社会の自然や地形、歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。		
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べるができる。		
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：地域社会研究の意義と活用 第3回：地域社会研究の学校教育への応用 第4回：地域社会研究の社会教育への応用 第5回：地域社会研究の意義と活用の振り返り及び地形図と地図記号 第6回：地形図の読み方と利用―三角点と水準点、道標など― 第7回：現地観察―大学、大豊駅周辺― 第8回：地形の形成―河川地形、海岸地形― 第9回：日立市の地形の特色―海岸段丘、日本最古の地層― 第10回：地形図の読み方の振り返り及び地域調査と資料取集 第11回：地域の史跡を調べる―日立南部を例に― 第12回：現地観察―日立南部地区の史跡― 第13回：地域の歴史を調べる―日立市を例に― 第14回：地域の交通史を調べる―茨城県を例に― 第15回：地域の近現代史を調べる―日立市を例に― 学期末試験
使用テキスト	資料は講師が用意する
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	ふだんから自分の地域に住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。
障がいのある履修者への対応	できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	講師控室で対応します。曜日時間等については、授業時に連絡します。
留意事項	授業時間内に本学周辺を野外観察します。（前期2回、後期2回程度予定）曾於の際は歩きやすい服装で対応願います。

科目コード	13555	科目ナンバリング	PE12C04K	主な使用言語	日本語
授業名	地域社会研究Ⅱ				
担当者	鈴木 克彦				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	08：協同学習	
				09：実地調査	
				17：発問と回答	
授業の概要					
私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市の南部地域の観察や、茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようになることを目的とする。また、地域調査も実施する中から、小中学校における社会科教育および総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。					
キーワード					
地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科における地域教材開発					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で学んだ地域社会の自然や地形、歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。		
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べることができる。		
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回：地域社会研究の各論Ⅰ-地域の活性化を目指す地域社会研究－ 第2回：地域社会研究の各論Ⅱ-まちづくり論と社会参画－ 第3回：地域社会研究の各論Ⅲ-地域コミュニティー－ 第4回：地域社会研究の各論Ⅳ-環境と防災、各論の振り返り－ 第5回：地域の文化財とその保護 第6回：身近な地域の文化・民俗調査の方法 第7回：「常陸風土記」に見る日立地方の姿 第8回：泉が森周辺の野外観察－イトヨの里、泉神社「常陸風土記」等－ 第9回：日立風流物やささらの歴史と現状 第10回：身近な地域の社会基盤整備について 第11回：現地観察－森山浄水場について－ 第12回：日立市及び茨城県の産業構造の見方 第13回：日立市及び茨城県の産業構造Ⅰ－農林水産業－ 第14回：日立市及び茨城県の産業構造Ⅱ－鉱工業－ 第15回：日立市及び茨城県の産業構造Ⅲ－商業、地域の産業構造の振り返り－ 学期末試験
使用テキスト	資料は講師が用意する
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	ふだんから自分の地域に住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。
障がいのある履修者への対応	できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	講師控室で対応します。曜日時間等については、授業時に連絡します。
留意事項	授業時間内に本学周辺を野外観察します。（前期2回、後期2回程度予定）曾於の際は歩きやすい服装で対応願います。

科目コード	14147	科目ナンバリング	CC20C11K	主な使用言語	日本語
授業名	西洋史				
担当者	森下 嘉之				
基本情報					
年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	なし	
授業の概要					
【まん延帽子等重点措置期間中の授業形態】遠隔授業（同時双方向型） ヨーロッパが世界の歴史の中で、なぜ重要な役割を果たすことになったのか、それによって世界にどのような問題が引き起こされたのか。現代の「グローバル化」に潜む課題をヨーロッパの歴史から考え直す。					
キーワード					
ヨーロッパ、グローバリズム、資本主義、社会主義、帝国、冷戦、ネーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	(1) 世界史という広い視野に立って、ヨーロッパの社会を理解できるようになる。(2) ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって、歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。(3) ヨーロッパ近現代史の最近の研究動向について理解できるようになる。		
評価方法	毎回の授業時に知識確認のためのコメントを求める。	評価割合	各回のコメントの割合は全体の30%とする。
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	21世紀のグローバル世界がどのように形成され、どのような問題が生じているのかを知るとともに、歴史的な大事件だけでなく、地域に生きる人々の歴史と文化を学ぶことで、「世界の俯瞰的理解」を得る		
評価方法	総合的な思考力を確認するために期末レポートを課す。	評価割合	期末レポートの比率は70%とする。
▼学修に主体的に取り組む態度			
20分以上の遅刻は出席とは認めない。			
評価割合	特になし		
▼実践的ボランティア			
特になし			
評価割合	特になし		
▼公正性			
特になし			
評価割合	特になし		
▼その他			
特になし			
評価割合	特になし		

授業計画	1. ガイダンス：「ヨーロッパ」とはなにか 2. 「中世」から「近世」へーハプスブルク帝国を例に 3. 17-18世紀ヨーロッパと「世界」のつながり 4. 18世紀後半ヨーロッパ「フランス革命」の時代 5. 19世紀ヨーロッパ「帝国主義」の時代 6. 19-20世紀ヨーロッパ「ナショナリズム」の時代 7. 第一次世界大戦勃発と「ロシア革命」の時代 8. 第一次世界大戦終結と「ヴェルサイユ体制」の時代 9. 1920-30年代ヨーロッパ「両大戦間期」という時代 10. 1930-40年代ヨーロッパ「ナチス・ドイツ」台頭の時代 11. 第二次世界大戦と「ホロコースト」 12. 第二次世界大戦の終結とヤルタ会談 13. 1950-60年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代1」 14. 1970-80年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代2」 15. 授業のまとめと21世紀のヨーロッパ
使用テキスト	教科書は用いない。授業レジュメを毎回配信する。 授業を理解するための参考書としては、以下を挙げておく。 北村厚『教養のグローバル・ヒストリー：大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	毎回の授業レジュメを事前に配信するので、ダウンロードの上確認すること。また、授業後の確認コメントについても、提出を怠らないこと。
障がいのある履修者への対応	受講希望者がいた場合には適宜対応する。
授業時間外の連絡手段	UNIPAの記載に準ずる。
留意事項	特になし

科目コード	14155	科目ナンバリング	CC10B05K	主な使用言語	日本語
授業名	歴史学A				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17 発問と回答 08 協同学修	
授業の概要					
この講義では、歴史を考えるための基礎を、日本史を主な素材として学びます。歴史学という学問は、みなさんが高校までに習った（覚えた）科目としての歴史（日本史・世界史）の内容とは、比べものにならないほどの広がりや深みをもった学問です。しかし、そのような歴史学に触れるためには、まずはみなさんが持っている歴史についての常識を越えていかなければなりません。この講義で目指すのはここです。そのためこの講義では、具体的な史実について深く講義をするのではなく、歴史を考えるとはどういうことかという、“歴史学の型”にかかわる話を中心にを行います。 後期の歴史学Bでは、より深い部分で、歴史学をする（学ぶではない）ための考え方のヒントになる事項を扱いますので、あわせて受講することをおすすめします。					
キーワード					
歴史学入門、歴史理論、史学概論					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けた基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。		
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で解説を受けた歴史の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。		
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものとみとめられた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接の評価対象とはしない。講義中の教員からの発問や実践指示（史料読解）に積極的に取り組む。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス 2 日本史とは何か-教養としての歴史学入門- 3 「日本人」とは何か 4 「日本国籍」とは何か 5 「日本文化」とは何か 6 日本史はなぜ変わるのか-歴史に真実はあるのか- 7 歴史の教科書には何を書いていないのか 8 中間まとめ 9 歴史を考えるとどういうことか 10 歴史理論とは何か①-皇国史観- 11 歴史理論とは何か②-マルクス主義史学- 12 歴史理論とは何か③-近代化論- 13 歴史理論とは何か④-アナール学派- 14 歴史理論とは何か⑤-世界システム論- 15 総括
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニパまたはチームスで共有するので、事前に自前のノートPCにダウンロードまたは印刷して授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	與那覇潤『日本人はなぜ存在するか』（集英社文庫、2018）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。
留意事項	特になし。

科目コード	14172	科目ナンバリング	CC30C09K	主な使用言語	日本語
授業名	観光地理学				
担当者	薄井 晴				
基本情報					
年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	07. 発表 (presentation) 17. 発問と回答 (questioning and answers)	
授業の概要					
当授業は、『旅行業務取扱管理者』試験における観光地理の対策講座です。観光業界に就職するには、国家試験である『旅行業務取扱管理者』に合格し、当該資格を取得しておくことが望ましいです。 当授業では、『国内旅行業務取扱管理者』の試験を見据えた暗記と模擬テストに特化した内容になります。 日本国内における膨大な数の観光地や観光イベントの概略、位置、イベント開催時期などを、暗記せねばなりません。試験対策のため、暗記が中心となります。『旅行業務取扱管理者』の取得を目指す学生に、受講してもらいたいと思います。					
キーワード					
旅行業務取扱管理者, 観光地理, 観光資源					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で学習した観光地理に関する事項をおおむね80%は暗記し、回答することができる。また、習得した知識をもとに、他者に伝えられることができる。		
評価方法	小テスト、中間試験、期末試験	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	『旅行業務取扱管理者』試験に出題される問題を正確に解くことができる。		
評価方法	小テスト、中間試験、期末試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業で学習した観光地理に関する事項を修得するために、各回の授業や復習において主体的に取り組んでいるかを評価する。具体的には、各回の授業で配布する提出課題の回答状況や創意工夫を評価基準とする。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
特になし			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしません。ただし課題・期末試験等において不正行為や剽窃などが見受けられた場合、授業中の私語や他の受講者に迷惑をかける行為を行った場合、著しい減点や厳重注意を行います。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1. ガイダンス（資格試験内容と学習視点の説明） 2. 主要観光地の学習（1）：北海道 3. 主要観光地の学習（2）：北東北 4. 主要観光地の学習（3）：南東北 5. 主要観光地の学習（4）：北関東 6. 主要観光地の学習（5）：南関東 7. 中間試験 8. 主要観光地の学習（6）：東海地方 9. 主要観光地の学習（7）：甲信越地方 10. 主要観光地の学習（8）：北陸地方 11. 主要観光地の学習（9）：近畿地方 12. 主要観光地の学習（10）：中国地方 13. 主要観光地の学習（11）：四国地方 14. 主要観光地の学習（12）：九州北部 15. 主要観光地の学習（13）：九州南部
使用テキスト	・ 中学、高校などで使用した地図帳や、昭文社の『旅地図（日本）』など、地名や観光資源が調べられる地図帳がある場合は持参すること。 ・ 『国内観光地理サブノート（第13版）』株式会社JTB総合研究所
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・ 授業の学習内容は、最低でも1時間をかけて予習・復習を繰り返す。 ・ 授業の最終目標は、暗記学習のみならず、自分の頭で観光地を理解・説明できることです。そのため、通常の講義に加えて、授業課題を通じて、観光地を「自分で調べる」機会を重視します。 ・ 毎回の詳細な授業内容は、事前に連絡します。 参考文献 ・ U-CAN『旅行業務取扱管理者 観光資源（国内・海外）ポケット問題集&要点まとめ』ユーキャン学び出版 ・ 『旅地図 日本』昭文社
障がいのある履修者への対応	まずは教務部窓口にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	Eメール (usui_haru@icc.ac.jp) にて対応します。

留意事項	特になし
------	------

科目コード	14206	科目ナンバリング	CC20C13K	主な使用言語	日本語
授業名	日本史A				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	17 発問と回答 08 協同学修		
授業の概要					
この授業では江戸時代から幕末維新期までの歴史を「近世社会の異文化交流」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながら、最新学説を交えながら深く学んでいく授業です。日本の歴史は、異文化との対峙なかで展開していきました。授業ではこれらの事例を学びながら、多文化共生の時代に対応するために不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。また、教職資格の取得を目指す学生にとっても、社会科（地歴）教員にとって重要な歴史的知見の獲得を目指します。（教職試験対策のための授業ではありません）					
キーワード					
近世史、四つの口、朝鮮通信使、地図、攘夷論					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けた基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。		
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で解説を受けた歴史の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。		
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものとみとめられた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接の評価対象とはしない。講義中の教員からの発問や実践指示（史料読解）に積極的に取り組む。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為が著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回： ガイダンス−「近世日本の異文化接触」−; 第2回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」① −:戦国時代の南蛮貿易とキリシタン政策−; 第3回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」② −:四つの口と管理貿易体制の確立−; 第4回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」③ −:日本型華夷秩序−; 第5回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」④ −:朝鮮通信使の概略−; 第6回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」⑤ −:朝鮮通信使と北関東−; 第7回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」⑥ −:朝鮮通信使と兩森芳洲−; 第8回： 中間まとめ 第9回： 日本図から読み解く自他認識① -地図が作られることの意味−; 第10回： 日本図から読み解く自他認識② -美術品から実用品へ−; 第11回： 幕末の対外危機と「海防」論① -「幕末」への展開−; 第12回： 幕末の対外危機と「海防」論② -水戸学−; 第13回： 幕末の対外危機と「海防」論③ -攘夷論と開国論−; 第14回： 幕末の対外危機と「海防」論④ −:徳川政権における積極開国論−; 第15回： 総括
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニバまたはチームスで共有するので、事前に自前のノートPCにダウンロードまたは印刷して授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	各回ごとの参考文献をレジュメに記載する。 全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』（山川出版社、2017年）を参照し復習してください。（90分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。
留意事項	特になし。

科目コード	14207	科目ナンバリング	CC20C14K	主な使用言語	日本語
授業名	日本史B				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17 発問と回答 08 協同学修	
授業の概要					
この授業では明治時代の歴史を「文明開化と対外戦争」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながら、最新学説を交えてより深く学んでいく授業です。明治初期からはじまる日本の近代化は、文明開化という光の側面と対外戦争という陰の側面をもちながら進んで行きました。授業ではこれらの事例を学びながら、多文化共生の時代に対応するために不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。また、教職資格の取得を目指す学生にとっても、社会科（地歴）教員にとって重要な歴史的知見の獲得を目指します。（教職試験対策のための授業ではありません）					
キーワード					
文明開化、岩倉使節団、翻訳、征韓／台論、日清戦争					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けた歴史事例の基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。		
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で解説を受けた歴史事例の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。		
評価方法	担当者が授業内に提示する複数の課題の成果から総合的に判断する。	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものとみとめられた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接の評価対象としない。講義中の教員からの発問や実践指示（史料読解）に積極的に取り組んでください。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回： ガイダンス−文明開化と対外戦争− 第2回： 明治維新期の対外関係と「開国」-幕末の対外論からはじめる明治の対外関係- 第3回： 岩倉使節団と文明開化① −岩倉使節団の派出− 第4回： 岩倉使節団と文明開化② −岩倉使節団と留守政府− 第5回： 岩倉使節団と文明開化③ −岩倉使節団と木戸孝允- 第6回： 岩倉使節団と文明開化④ −岩倉使節団と伊藤博文- 第7回： 岩倉使節団の帰国と対外関 −征韓論と征台論- 第8回： 征韓論と征台論の行方① −明治六年政変− 第9回： 征韓論と征台論の行方② −江華島事件− 第10回： 近代化と翻訳語① −翻訳することの意味について− 第11回： 近代化と翻訳語② -翻訳語の今昔− 第12回： 日清戦争① -日清戦争についての先行研究− 第13回： 日清戦争② -日清戦争開戦にいたる軍の動向− 第14回： 日清戦争③ -開戦経緯と日清戦の意味について− 第15回： 総括
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニバまたはチームスで共有するので、事前に自前のノートPCにダウンロードまたは印刷して授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	各回ごとの参考文献をレジュメに記載する。 全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』（山川出版社、2017年）を参照し予習・復習を行って下さい（90分）。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。
留意事項	特になし。

科目コード	20003	科目ナンバリング	WP10C19K	主な使用言語	日本語
授業名	生命と倫理				
担当者	北 夏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜6限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	11. 討論 15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
本講義では「人間」ならびに「動物」さらには「植物」に関する「倫理」を扱う。それらを扱うに際して「人間」「動物」「植物」各々の「始まり」と「終わり」に着目する。「人間」の「始まり」については「出生」をめぐる倫理的諸課題を扱う。「終わり」については「死」をめぐる倫理的諸課題を扱う。「動物」「植物」に関しては、「食」に関わる産業の倫理的課題を扱い、「より良い生」「健康」を探究する際に生じる倫理的問題について考察する。本講義を通して、私たちが直面する諸課題に対して、参加者が自分の意見をもつことができるようになることを目指す。					
キーワード					
生命、人間、動物、植物、健康、病、出生、死、家族、食、畜産業、農業、消費行動、より良い生					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けた倫理学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。		
評価方法	振り返り用紙	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	レポート	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 ガイダンス 本講義で扱う領域について紹介する。 第2回 思想史から「生命」概念を概観する。 第3回 個としての人間の始まりにおける倫理的諸問題 第4回 個としての人間の終わりにおける倫理的諸問題 第5回 「動物」と「食」をめぐる倫理(1) 第6回 「動物」と「食」をめぐる倫理(2) 第7回 「植物」と「食」をめぐる倫理(1) 第8回 「植物」と「食」をめぐる倫理(2) 第9回 人間の消費行動と倫理 第10回 人間の技術開発と倫理 第11回 レポートの書き方と研究倫理 第12回 「健康」と「病」についての思想(1) 第13回 「健康」と「病」についての思想(2) 第14回 「より良い生」「健康」の探求と倫理的諸課題(1) 第15回 「より良い生」「健康」の探求と倫理的諸課題(2)
使用テキスト	『倫理学案内—理論と課題』小松光彦、樽井正義、谷寿美編、慶應義塾大学出版会、2006年。 ※授業で使用する資料は適宜配付します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。 ・授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。 ・参考文献、資料は授業中に適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	20004	科目ナンバリング	WP10C20K	主な使用言語	日本語
授業名	人間と哲学				
担当者	北 夏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜6限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
この講義では、「人間を社会的な存在として考えるという視点」（『哲学の歴史』8巻）が打ち出されるようになった19世紀のフランス、イギリスにおこった社会哲学を扱います。特に、『宗教生活の原初形態』でよく知られるフランスの思想家エミール・デュルケム、『道徳と立法の諸原理序説』で知られるジェレミー・ベンサム、そしてハーバート・スペンサーの思想を扱います。進歩、進化の概念が表れるこの時代の思想的潮流について、チャールズ・ダーウィン等の進化論の内容を押さえつつ、辿っていきます。 これらの思想家たちは、同じ19世紀の哲学者ヘーゲル、マルクス、ニーチェといったドイツの思想家たちに比べて、日本においては、小粒の思想家という印象をもたれるかもしれませんが、その格付けは、「かならずしも世界共通のものとは言え」ません（『哲学の歴史』8巻）。また、彼らのなかには、大学で教えることを生業としなかったアマチュア思想家ならではの、ユニークな発想を見ることができま す。「より敏感に社会の抱える問題やその変化の方向について感じ取り、それをもとに哲学の新方向を模索」（同書）した、彼らの思想に耳を傾け、私たちがここから考えだすためのヒントを探りましょう。					
キーワード					
進歩、進化、進化論、社会、19世紀、フランス、イギリス、トクヴィル、コント、デュルケム、ベンサム、ミル、スペンサー、ダーウィン、ペルクソン					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けた哲学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を理解し、自分の意見を述べることができる。		
評価方法	振り返り用紙	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表明することができる。		
評価方法	レポート	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第1回 ガイダンス 授業概要説明 第2回 19世紀という時代 第3回 フランスの社会主義：サン・シモン、フーリエ、ブルードン、ブランキ 第4回 トクヴィル：デモクラシー、個人主義 第5回 コント：実証哲学、社会学、人類学 第6回 19世紀フランス哲学の潮流、フランス・スピリチュアリズム 第7回 デュルケム(1)：『社会分業論』、『自殺論』 第8回 デュルケム(2)：『宗教生活の原初形態』 第9回 ベンサム(1)：最大多数の最大幸福 第10回 ベンサム(2)：『道徳と立法の諸原理序説』 第11回 ミル：『功利主義論』『自由論』 第12回 スペンサー(1)：総合哲学体系 第13回 スペンサー(2)：スペンサーと日本 第14回 進歩と進化 第15回 まとめ
使用テキスト	『哲学の歴史 社会の哲学【18-20世紀】』第8巻、伊藤邦武編、中央公論新社、2010年。 ※授業で使用するテキストは適宜配付します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(90分)。 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。 【参考文献】 チャールズ・ダーウィン『種の起源』上、八杉龍一訳、岩波文庫、1990年。 チャールズ・ダーウィン『種の起源』下、八杉龍一訳、岩波文庫、1990年。 ※参考文献・資料は授業中に適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。

留意事項

特になし。

科目コード	20006	科目ナンバリング	WP10C21K	主な使用言語	日本語
授業名	人権と教育				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
「義務教育」とは何でしょうか。子どもが学校に行かなくてはならない義務、と誤解されていませんか。子どもは学習の主体であり、自ら学ぶ権利があります。ですが、何を学ぶかは未知ですから、教育を受ける主体としての親が必要になります。すなわち、学校に行かせるのは親の義務なのです。しかし、親の職業や家庭の経済状況などにより、就学機会にも格差が生じかねないため、国が授業料を負担したり、教科書を無償提供したりして、財政的な支援により子どもを含めた家庭を支援しています。その一方、このような教育の機会均等は、一定限度の教育成果の獲得も必要とすると解釈されて、教育内容について国は、学習指導要領や教科書検定などを通じて介入する権限があると理解しています。その結果、家庭を中心とした私的な営みであった教育は、公教育の導入によって公的な営みに転化しており、さらに、地域に身近な分権的な作用を離れて、国を中心とした集権的な作用へと変容しています。そのような関係の中で、子どもや親と国（地方公共団体）を仲介していく教師にはどのような役割が期待されているのでしょうか。これから教員を目指そうとする皆さんと一緒に考えていきたいと思います。					
キーワード					
憲法第26条、教育の機会均等、学習権、教育を受けさせる義務、親（教師）の教育権、国の教育権、教育委員会、学習指導要領、教科書検定、いじめ、不登校、少年法、児童虐待					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	学ぶ主体としての子どもの自由を法的にいかに保障するのか、また、権利の主体として子どもの意思をいかに尊重するべきなのかを、憲法の人権論や子どもの権利条約を通じて理解するとともに、教育をめぐる法制度と子ども、親および地域住民との関係について認識できる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	教育制度や教育法制を子どもを中心に理解できるとともに、教育の主体としての親の役割や地域住民との協働のあり方について自己の意見を持つことができる。		
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
教育において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身につける。			
評価割合	5%		
▼実践的ボランティア			
該当なし			
評価割合	0%		
▼公正性			
教育をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較衡量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。			
評価割合	5%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	1 ガイダンス 2 教育をめぐる法源 3 憲法と教育基本法 4 子どもと人権尊重 5 子どもの権利条約 6 学校の種類と設置者 7 教職員の服務・義務 8 いじめの背景と要因 9 いじめの防止と対策 10 不登校をめぐる動き 11 不登校児童生徒支援 12 親権と児童虐待防止 13 児童虐待の防止対策 14 教員免許と教員養成 15 全体まとめ 16 定期試験
使用テキスト	古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』（ミネルヴァ書房）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	20013	科目ナンバリング	WP10C16K	主な使用言語	日本語
授業名	社会学				
担当者	北 夏子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
社会学の根本主題は、現実的・可能的な社会秩序はいかにして可能かという問いであるとされています（『岩波哲学・思想事典』）。また、社会とは、相互作用や協働によって生命体が維持される世界を意味し、人間のみならず、人間以外の動物や植物にも広くみられる現象のことで（同書）。人間社会において、私たちは豊かな文化を構築し経済活動を行っています。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みについて見ていきます。具体的なニュースも扱いつつ、社会的な事象を捉える方法を学んでいきます。					
キーワード					
人間と社会、個人と集団、家族、性、産業、労働、医療、社会問題、格差、メディア					

学位授与方針との関係				
▼知識・技能				
到達目標	社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。			
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%	
▼思考力・判断力・表現力				
到達目標	社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。			
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%	
▼学修に主体的に取り組む態度				
授業内で質問や発言を積極的に行うなど、授業に積極的に参加してください。				
評価割合	0%			
▼実践的ボランティア				
直接的な評価対象とはしない。				
評価割合	0%			
▼公正性				
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。				
評価割合	0%			
▼その他				
特になし。				
評価割合	0%			

授業計画	第1回 ガイダンス 社会学とは何か 第2回 社会学の歴史（1） 第3回 社会学の歴史（2） 第4回 社会と「私」 第5回 家族と社会 第6回 性と社会 第7回 労働と産業 第8回 消費と社会 第9回 環境・災害社会学 第10回 医療と教育 第11回 逸脱行動と社会問題 第12回 格差 第13回 宗教と社会 第14回 メディアと社会 第15回 振り返りと統括
使用テキスト	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前に、各回で扱うテキストの該当箇所を目を通しておいください（90分）。 ・授業後には、授業で得た知識を整理し、強く関心をもった箇所についてはその周辺の事象を積極的に調べ、期末レポート執筆のための準備をしておいてください（90分）。 ・参考文献および資料については、授業内に指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。
留意事項	この授業では、新聞記事、ニュースなどを多く扱います。参加者にも日常的に新聞などを読むことを強くすすめます。

科目コード	21061	科目ナンバリング	WP20C26K	主な使用言語	日本語
授業名	社会病理学				
担当者	渡邊 健蔵				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	振り返り用紙と回答	
授業の概要					
本講義では、社会病理学の基礎をふまえ、身近にある様々な社会病理現象について扱い、具体的に学ぶ。心理学のみならず、社会学の視点を取り入れ、より広い視野で物事を考える力を身に付けることで、心理臨床にいかせるようにする。					
キーワード					
社会病理, 心理学, 社会学					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	社会病理の心理社会的な要因を理解し、それを社会全体の問題として捉えられる。また、それぞれの社会病理現象の特徴、課題を説明できる。		
評価方法	レポート	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	社会病理について、多角的に自分の考えを述べ、今後の社会参加のあり方について問い直すことができる。		
評価方法	レポート	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、講義内容について関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢は学生として望ましい。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度等において著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	1. 社会病理学とその理論 2. 自殺 3. いじめ 4. 不登校 5. ひきこもり 6. 児童虐待 7. DV 8. 摂食障害 9. アルコール依存症 10. うつ 11. 認知症 12. 統合失調症 13. 視聴覚教材を用いた授業（1） 14. 視聴覚教材を用いた授業（2） 15. まとめ
使用テキスト	特になし。講義で使用する資料は全てこちらで印刷し配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：予告した次回の授業内容について、調べておくことが望ましい。 復習：授業後、配布資料について復習し、知見を深めておくことが望ましい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	最初の講義でお知らせするメールアドレスにご連絡ください。何かありましたら個別に対応します。
留意事項	特になし。

科目コード	21063	科目ナンバリング	WP22C06K	主な使用言語	日本語
授業名	心理福祉特講B				
担当者	渡邊 健蔵				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	振り返り用紙と回答	
授業の概要					
本講義では、社会心理学及び犯罪心理学の観点から、反社会的行動や多様な犯罪への理解を深めることを目的とする。特に加害者及び被害者の心理を中心に学んでいく。					
キーワード					
社会心理, 犯罪心理, 加害者及び被害者の心理					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	社会心理学及び犯罪心理学の観点から、様々な反社会的行動や犯罪について理解できる。また、それぞれの現象の特徴や心の働きについて説明できる。		
評価方法	レポート	評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	様々な反社会的行動や犯罪における加害者及び被害者の心理を理解し、自身の興味・関心を有するテーマについて、自分自身の考えを多角的に述べるができる。		
評価方法	レポート	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、講義内容について関心を持ち、疑問を持って考え、主体的に学ぶ姿勢をもつことが望ましい。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度等において著しく公正性を欠く場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	1. はじめに 2. 反社会的行動をもたらす認知の歪み (1) 3. 反社会的行動をもたらす認知の歪み (2) 4. 反社会的行動をもたらす認知の歪み (3) 5. いじめ (1) 6. いじめ (2) 7. 殺人 (1) 8. 殺人 (2) 9. パーソナリティ障害 (1) 10. パーソナリティ障害 (2) 11. 視聴覚教材を用いた授業 (1) 12. 視聴覚教材を用いた授業 (2) 13. ストーカー 14. 性依存症 15. まとめ
使用テキスト	特になし。講義で使用する資料は全てこちらで印刷し配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：予告した次回の授業内容について、調べておくことが望ましい。 復習：授業後、配布資料について復習し、知見を深めておくことが望ましい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	最初の講義でお知らせするメールアドレスにご連絡ください。何かありましたら、個別に対応します。
留意事項	特になし。

科目コード	21139	科目ナンバリング	WP11C06K	主な使用言語	日本語
授業名	児童・家庭福祉I				
担当者	朴 東民				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題 16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
少子高齢化、雇用の不安定化、地域社会のつながりの希薄化など社会のあらゆる局面に変化が起こり、子どもの育ちの基盤が揺らいでいくなか、児童虐待や貧困など子どもとその家族をめぐる様々な問題が発生しています。このような状況のなか、子どもの最善の利益を守り、諸権利を保障するための児童・家庭福祉の法制度、専門職のあり方を探っていくことが以前にも増して重要になっています。本講義は、子どもや子育て家庭の現状、児童・家庭福祉の理念、歴史、法制度、様々な分野における児童・家庭福祉サービス、専門職などについて学びます。					
キーワード					
子どもの最善の利益、子どもの権利、児童・家庭福祉の法制度、児童・家庭福祉の専門職、児童・家庭福祉の支援サービス					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	児童・家庭福祉の理念、歴史、法制度、専門職、支援サービスについて内容を理解することができる。		
評価方法	振り返り用紙、期末試験	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	現代社会において子どもとその家族が直面している諸問題について理解し、児童・家庭福祉の理念を具現化するための法制度、支援のあり方について自分の考えを述べるができる。		
評価方法	振り返り用紙、期末試験	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、復習を重ね、多様な資料、メディアを活用した自習学習により、授業の内容について理解を深めることを推奨する。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしないが、児童・家庭福祉の多様な分野の課題やボランティア活動に関心を高め、自発的な学習を行うことを推奨する。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やレポートにおいて人権侵害・差別的な発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象になることがある。			
評価割合	0%		
▼その他			
振り返り用紙の作成や期末試験における不正行為については厳正に対処する。			
評価割合	0%		

授業計画	第01回：オリエンテーション、児童・家庭福祉とは 第02回：子どもと家族を取り巻く社会の状況 第03回：子どもと家族の生活実態と直面している問題 第04回：子どもの権利をめぐる国内外の動向 第05回：子どもの権利条約の内容 第06回：西欧の児童福祉の歴史 第07回：日本の児童福祉の歴史 第08回：児童・家庭福祉を支える法制度①-児童福祉法、児童福祉六法 第09回：児童・家庭福祉を支える法制度②-児童・家庭福祉に関連する法律 第10回：児童・家庭福祉の実施体制①-実施機関・施設、財源 第11回：児童・家庭福祉の実施体制②-児童・家庭を支援する専門職 第12回：ひとり親家庭への支援 第13回：子どもの貧困対策 第14回：教育福祉の取り組み 第15回：まとめ 期末試験を実施
使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』、中央法規、2021年 ※ 授業の資料は、別途配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・予習：教科書や参考文献の関連内容に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます（90分） ・復習：授業の内容を振り返り、新聞やテレビ、インターネットなど多様なメディアを活用して自主学習を行ったら、授業で学んだ内容を深掘りすることができます（90分） ※ 参考文献・資料については、授業時に随時紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。まずは、学務部・教員にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワー、研究室で対応します。（曜日・時限等は初回講義でお知らせします）。 来校できないなど事情がある場合は、メールでも対応します。
留意事項	・毎回のリアクションペーパーは評価対象になります。 ・本授業では、対面の講義だけでなく、視聴覚資料等も活用します。 ・本科目は心理福祉学科の福祉系専門科目ですので、受講希望者が多い場合は心理福祉学科所属学生の受講を優先します。予めご了承ください。 ・授業の進行を妨げたり、他の学生に迷惑をかけることがないよう、授業のマナーを守りましょう。

科目コード	21140	科目ナンバリング	WP12G04K	主な使用言語	日本語
授業名	児童・家庭福祉Ⅱ				
担当者	朴 東民				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題 16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
少子高齢化、雇用の不安定化、地域社会のつながりの希薄化など社会のあらゆる局面に変化が起こり、子どもの育ちの基盤が揺らいでいくなか、児童虐待や貧困など子どもとその家族をめぐる様々な問題が発生しています。このような状況のなか、子どもの最善の利益を守り、諸権利を保障するための児童・家庭福祉の法制度、専門職のあり方を探っていくことが以前にも増して重要になっています。本講義は、「児童・家庭福祉Ⅱ」で学んだ知識を踏まえて、多様な分野における児童・家庭福祉の法制度、支援サービスの現状と課題について学びます。					
キーワード					
子どもの最善の利益、子どもの権利、児童・家庭福祉の法制度、児童・家庭福祉の専門職、児童・家庭福祉の支援サービス					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	児童・家庭福祉の各分野における関連法制度、支援サービス、専門職の役割について内容を理解することができる。		
評価方法	振り返り用紙、期末試験	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	現代社会において子どもとその家族が直面している諸問題について理解し、児童・家庭福祉の理念を具現化するための法制度、支援のあり方について自分の考えを述べるができる。		
評価方法	振り返り用紙、期末試験	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、復習を重ね、多様な資料、メディアを活用した自習学習により、授業の内容について理解を深めることを推奨する。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしないが、児童・家庭福祉の多様な分野の課題やボランティア活動に関心を高め、自発的な学習を行うことを推奨する。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やレポートにおいて人権侵害・差別的な発言など著しく公正性を欠く言動などがあった場合は、減点や嚴重注意の対象になることがある。			
評価割合	0%		
▼その他			
振り返り用紙の作成や期末試験における不正行為については厳正に対処する。			
評価割合	0%		

授業計画	第01回：オリエンテーション、児童・家庭福祉の理念、視点の再確認 第02回：保育の実施体制 第03回：子ども・子育て支援制度 第04回：母子保健 第05回：児童健全育成 第06回：少子化対策 第07回：社会的養護 第08回：児童虐待防止対策①-児童虐待の実態と予防 第09回：児童虐待防止対策②-児童虐待の発見と対応 第10回：女性福祉 第11回：障害児と家族への支援 第12回：不登校・いじめ防止対策 第13回：ヤングケアラーへの支援 第14回：居場所づくり 第15回：まとめ 期末試験を実施
使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』、中央法規、2021年 ※ 授業の資料は、別途配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・予習：教科書や参考文献の関連内容に目を通しておくと、講義内容の理解に役立ちます（90分） ・復習：授業の内容を振り返り、新聞やテレビ、インターネットなど多様なメディアを活用して自主学習を行ったら、授業で学んだ内容を深掘りすることができます（90分） ※ 参考文献・資料については、授業時に随時紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。まずは、学務部・教員にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワー、研究室で対応します。（曜日・時限等は初回講義でお知らせします）。 来校できないなど事情がある場合は、メールでも対応します。
留意事項	・毎回のリアクションペーパーは評価対象になります。 ・本授業では、対面の講義だけでなく、視聴覚資料等も活用します。 ・本科目は心理福祉学科の福祉系専門科目ですので、受講希望者が多い場合は心理福祉学科所属学生の受講を優先します。予めご了承ください。 ・授業の進行を妨げたり、他の学生に迷惑をかけることがないよう、授業のマナーを守りましょう。

科目コード	21143	科目ナンバリング	WP11C08K	主な使用言語	日本語
授業名	高齢者福祉Ⅰ				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日・時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16振り返り用紙と応答 17発問と回答	
授業の概要					
前期の「高齢者福祉Ⅰ」では、高齢者に関する理解を中心に高齢者を取り巻く社会情勢の理解を深め、 高齢者福祉の発展過程をたどる。高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。 これらをもとに高齢者の生活実態を踏まえた、家族や地域社会の現状を理解し、介護サービスの実際の理解を深める。さらに介護保険制度の現状について、自ら考察できるように講義を進める。 本講義に引き続き、後期開講の「高齢者福祉Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。					
キーワード					
老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。		
評価方法	試験	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現すること ができる。		
評価方法	試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。 提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	【第01回】 授業オリエンテーション、高齢者の定義と特性 【第02回】 高齢化率と高齢社会 【第03回】 日本の高齢化の特徴と課題 【第04回】 高齢者の生活実態 【第05回】 高齢者世帯の特徴と課題 【第06回】 家族介護の現状と課題 【第07回】 高齢者観の変遷 【第08回】 社会福祉前史と高齢者福祉 【第09回】 老人福祉法の誕生から在宅福祉への移行 【第10回】 介護保険制度の誕生と地域包括ケアシステムの構築 【第11回】 高齢者福祉の理念 【第12回】 介護保険制度と財政 【第13回】 介護認定の仕組みと介護保険事業計画 【第14回】 地域支援事業 【第15回】 介護保険サービスの体系 前期のまとめ 試験
使用テキスト	専門科目2『最新・社会福祉士養成講座 高齢者福祉』 編集 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8245-0
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード	21144	科目ナンバリング	WP12C06K	主な使用言語	日本語
授業名	高齢者福祉II				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16振り返り用紙と応答 17発問と回答		
授業の概要					
前期開講の「高齢者福祉Ⅰ」の履修し単位を修得した者を対象に高齢者福祉論を展開する。 高齢者を取り巻く社会情勢を踏まえて 高齢者福祉の発展過程をたどる。老人福祉法や介護保険制度などを中心に高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。 これらを踏まえて、高齢者介護の実際に対する理解を深め、介護保険サービスの内容と今後の課題について自ら考察できるように講義を進める。					
キーワード					
老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。		
評価方法	試験	評価割合	60%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現すること ができる。		
評価方法	試験	評価割合	20%
▼学修に主体的に取り組む態度			
講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。 提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や厳重注意の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	【第01回】 高齢者保健福祉の法体系 【第02回】 老人福祉法 【第03回】 高齢者医療確保法 【第04回】 高齢者虐待防止法 【第05回】 バリアフリー法 【第06回】 高齢者住まい法 【第07回】 高齢者雇用安定法 【第08回】 育児・介護休業法 【第09回】 市町村独自の高齢者支援 【第10回】 高齢者と家族等の支援における関係機関の役割 【第11回】 高齢者と家族等の支援における関連する専門職等の役割 【第12回】 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割 【第13回】 家族の介護負担軽減と就労支援 【第14回】 高齢者虐待や近隣トラブルがある高齢者への対応 【第15回】 地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者 まとめ 試験
使用テキスト	専門科目2『最新・社会福祉士養成講座 高齢者福祉』編集 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8245-0
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	* 講義は前期「高齢者福祉Ⅰ」を履修した者を対象に開講する。 * 教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード	21158	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	刑事司法と福祉B				
担当者	高橋 活夫				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜1限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
子ども（少年）や障害者、高齢者、女性など社会的弱者が関係する犯罪事件が、毎日のように報道されています。 この授業では、罪を犯した社会的弱者の社会復帰支援や制度について学んでいきます。 また、社会的弱者は犯罪被害に遭うことも多く、司法や福祉が連携しながら対応・支援していく重要性について学んでいきます。 理解を深めるために、社会的弱者の関係する犯罪事件の具体的ケースを通して、支援の課題や問題点について考えていきます。					
キーワード					
司法臨床 人間行動科学 立ち直り 環境調整 社会復帰 連携 権利 責任能力 日本型福祉社会					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	①少年法と少年犯罪を取り巻く課題について理解します。 ②医療観察制度と精神障害者への社会的偏見について理解します。 ③高齢者・障害者の社会復帰支援と被害支援について理解します。 ④アディクション（依存症）を抱えた者の社会復帰支援について理解します。 ⑤犯罪被害者支援、特に女性や子どもの暴力被害支援について理解します。		
評価方法	課題レポート、学期末筆記試験	評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で取り上げた各テーマに関する知識を自ら深め、それを筋道立てて論述することができます。 更に、実務現場で求められる要点を押さえた論理力、表現する力（口頭での説明、文章化）を身につけます。		
評価方法	学期末筆記試験、課題レポート	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接の評価対象にはしませんが、主体的な修習による深まりが、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接の評価対象にはしませんが、ボランティア活動などによって獲得された知識や理解が、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接の評価対象にはしませんが、先入観、偏見に基づく差別的言動や記述については注意します。そして話し合いたいと思います。それを通じて学び、深め、成長につなげてほしいと考えます。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回：オリエンテーション～司法と福祉～ 第2回：少年司法 第3回：少年の施設内処遇 第4回：少年事件と実名報道 第5回：少年事件と死刑判決 第6回：精神障害者と医療観察制度 第7回：精神障害者と事件報道 第8回：高齢者・障害者の犯罪・非行 第9回：犯罪に巻き込まれる障害者 第10回：高齢者の犯罪と福祉 第11回：アディクションを抱える人と刑事司法 第12回：犯罪被害者等支援 第13回：女性等の暴力被害支援 第14回：子ども虐待と刑事事件 第15回：まとめと今後の課題 定期試験
使用テキスト	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「10 刑事司法と福祉」』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規、2021年、2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、次回取り上げるテキストのテーマや配布資料を読み、分からない用語や個所を明らかにしておいてください。授業後は、分からなかったところについて明らかにし、質問してください。分からないままにしないでください。 普段から子ども（少年）や障害者、高齢者、女性などに関する犯罪事件に関心を持ち、調べてください。 参考文献は以下のものです。 『自閉症裁判 レッサーパンダ帽の「罪と罰」』佐藤幹夫、朝日文庫、2008年、1100円＋税 『刑務所しか居場所のない人たち』山本謙司、大月書店、2018年、1500円＋税 『少年法入門』廣瀬健二、岩波新書、2021年、902円 『記者がひもとく「少年」事件史』川名壮志、岩波新書、2022年、860円＋税 その他参考文献を、授業で提示します。
障がいのある履修者への対応	障がいに応じて可能な限り適切に対応します。
授業時間外の連絡手段	IC-Mailにて連絡ください。IC-Mail、若しくは授業の前後に直接返答します。

留意事項	特になし
------	------

科目コード	41041	科目ナンバリング	MA21B02K	主な使用言語	日本語
授業名	マーケティング論I				
担当者	田原 静				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答	
授業の概要					
企業が事業を維持していくためには継続的に顧客を獲得することが必要であり、マーケティングはその意味で企業活動において極めて重要な役割を担っている。この授業では教科書を活用しながら、マーケティングの基礎概念・理論と実践の変遷について解説する。身近な製品・サービスの事例の分析を通し、理解を深める。					
キーワード					
マーケティング概念の変遷、消費者理解、STP、Product、Price、Promotion、Place					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	マーケティングに関する基本的な概念や理論を正しく理解し、マーケティングとは何か、企業経営の中でどのような位置づけを占め、各実行段階でどのような手法を用いるかを説明できる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	マーケティングの事例に関し、背景にある企業としての戦略やマーケターの意図、消費者の行動に与える影響について理論をベースに検討し説明できる		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み遅滞なく提出すること。教員からの問いかけに対しては積極的に発言・発表すること。講義形式中心で進めていくが、授業時間中は私語を慎むこと。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：マーケティングとはなにか 第3回：消費者の行動 第4回：購買意思決定の影響要因 第5回：マーケティング・リサーチ 第6回：経営環境の把握 第7回：セグメンテーション、ターゲティング：ポジショニング 第8回：製品と製品ミックス 第9回：新製品開発 第10回：価格の設定 第11回：戦略的価格 第12回：プロモーションの理解 第13回：プロモーションの手段 第14回：マーケティング・チャネル／メーカーと流通 第15回：まとめ 定期試験
使用テキスト	黒岩健一郎・水越康介著『マーケティングをつかむ〔第3版〕』有斐閣、2023年、2,200円＋税。 【注意】2023年発行の〔第3版〕を使います。入手の際は書名や「版」をよく確認し、間違えないように注意してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前にテキストの該当箇所を目を通し、内容を理解しておくこと(60分)。また、授業後は学習した内容を振り返ったうえ文献・資料等1で、テキストのケースや演習問題等に取り組むことが望ましい(60分)。その他、別途資料を提示した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。課題が出された場合は、切までに提出すること。参考文献などは必要に応じて授業の中で随時紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	メールにて対応する
留意事項	①「学期末定期試験」と、②「授業期間中に複数回課す予定の課題（ミニ・レポート類等）」とを総合して評価する。 授業中に簡単なアンケートやワーク等を課すこともあるが、一人一人がしっかりと取り組み、意見を求められた場合には自らの考えを発言できるようにすること。なお、授業期間内に課したレポート類については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。 BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応して下さい。

科目コード	41042	科目ナンバリング	MA22G03K	主な使用言語	日本語
授業名	マーケティング論II				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答	
授業の概要					
1950年代に体系化された伝統的なマーケティングの理論枠組みは、その後、1970年代にはソーシャル・マーケティング、さらには1980年代以降、サービス・マーケティング、リレーションシップ・マーケティング、生産財マーケティングへとその領域を拡張してきた。最近では、グローバル化の進展やインターネットの普及によって、グローバル・マーケティングやデジタル・マーケティングといった領域も台頭している。本科目では、そのような拡張されたマーケティング領域について解説する。					
キーワード					
戦略的マーケティング、経営資源、マーケティングの拡張					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けたマーケティングの拡張領域に関する基本的な理論枠組みについて、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、実際の企業活動を観察し、参考文献等を参照しながら考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第01回 イントロダクション 第02回 基本戦略 第03回 製品ライフサイクル戦略 第04回 市場地位別戦略 第05回 事業領域と成長戦略 第06回 資源展開 第07回 ブランド 第08回 関係性マーケティング 第09回 サービス・マーケティング 第10回 生産財マーケティング 第11回 グローバル・マーケティング 第12回 ソーシャル・マーケティング 第13回 デジタル・マーケティング 第14回 サービス・ドミナント(S-D) ロジック 第15回 まとめ
使用テキスト	黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ [第3版]』有斐閣、2023年、ISBN: 978-4641177321, 2,420円(税込み)。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業時に配布したレジュメは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考文献等は、適宜、授業中に紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィシアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41043	科目ナンバリング	主な使用言語		日本語
授業名	流通システム論				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答	
授業の概要					
我々の日常生活は、無意識に流通と深く関わっている。消費者の消費行動や消費文化は、流通が下支えしている。そこで本科目では、わが国の流通システムを構成しているさまざまな小売業態について観察し、過去から現在への変遷を辿りながら、それらの小売業態の特徴を理解する。また、流通システムは時代の流れと共に常に変化していることから、小売業態だけでなく卸売業者や取引慣行も含めて、それらがどのように変化していくのか、担当教員の実務経験を活かしながら将来を展望する。					
キーワード					
流通システム、流通フロー、卸売業者、小売業者、業態					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	わが国の流通に関する理論的枠組みを理解できる。具体的には、主要な業態を概観した上で、わが国の流通構造の变化を理解できる。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	わが国の流通構造の背景や流通を取り巻く現在のマクロ環境を踏まえた上で、さまざまな小売業態の将来のあるべき姿を描いたり、今後の流通構造の変化を見通したりすることができる。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第01回 流通とは 第02回 百貨店と総合スーパー 第03回 食品スーパーとコンビニエンス・ストア 第04回 ディスカウント・ストアとSPA 第05回 商店街とショッピングセンター 第06回 小売業態とは何か 第07回 小売を支えるロジスティクス 第08回 インターネット技術と新しい小売業態 第09回 小売を支える卸 第10回 流通構造とその変容 第11回 日本的取引慣行 第12回 小売を中心とした取引慣行 第13回 売買集中の原理と品揃え形成 第14回 商業とまちづくり 第15回 製販連携の進展
使用テキスト	石原武政・竹村正明・細井謙一 編著『1からの流通論(第2版)』碩学舎、2018年、ISBN: 978-4502283611、2,640円(税込み)。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	テキストの他、適宜、参考資料としてプリントを配布する。授業時に配布したプリントは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考書等は、適宜、授業中に紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィシアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41044	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	流通経営論				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答		
授業の概要					
小売業は、流通構造の末端に位置し、消費者の嗜好や購買行動の変化に柔軟に適合していくことで成長し続けている。小売業者は、新たな業態の開発のために、常に、立地、マーチャンダイジング、プロモーションといったマーケティング・ミックスを調整している。本科目では、前半では小売業の業態開発に関する理論的枠組みについて概説し、後半では近年の新しい小売業態とビジネス・モデルについて考察する。					
キーワード					
小売業態、リテール・マネジメント、マーチャンダイジング、サプライチェーン					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けた小売業経営に関する基本的な理論枠組みについて、概ね80%の事項を理解し説明することができる。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、特定の小売業態を観察し、参考文献等を参照しながら考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第01回 流通フローと流通機関 第02回 小売業態の進化 第03回 立地選択と出店戦略 第04回 仕入活動の管理 第05回 インストア・プロモーション 第06回 延期と投機の原理 第07回 POSシステム 第08回 サプライチェーン・マネジメント 第09回 小売業の商品開発 第10回 小売業の海外進出 第11回 ドラッグストア 第12回 均一価格店 第13回 BtoC-ECとオムニチャネル 第14回 デジタル・プラットフォーム 第15回 まとめ
使用テキスト	テキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	前期の流通システム論を同時に履修することを推奨する。授業時に配布するレジュメは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考文献等は、適宜、授業時に配布するレジュメの中で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィシアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41049	科目ナンバリング	MA20C10K	主な使用言語	日本語
授業名	応用簿記論				
担当者	竹内 翼				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16, 17	
授業の概要					
本講義では、財務会計の基礎となる商業簿記を学習します。日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目的とします。会計は、企業活動において経営成績及び財政状態を報告するためのツールです。日商簿記3級水準の修得者や講義受講者を対象に、企業活動への理解を深めるため貸借対照表・損益計算書から説明される内容や役割を、複式簿記を通じて理解します。 複式簿記の記帳技術は様々ありますが、本講義では仕訳を習得することを第一とします。仕訳習得を重視する理由は、取引を分類して帳簿に記載する1つ1つの積み上げが正確な財務諸表の作成に繋がるためです。講義は、テキストに沿って各取引の解説を行い、その都度、基本問題を解く形で進めていきます。簿記は、講義を聞くだけでは修得できず問題演習を通じて理解度が高まるので、積極的に問題を解くことを推奨します。					
※授業計画は、授業の進行状況や学生の理解度に応じて変更する場合があります。 ※実際の日商簿記検定2級では、工業簿記も試験範囲となっているため、合格を目標とする場合は別途工業簿記を学習することが望ましいです。 ※元銀行員・税理士業務での実務経験を活かし、必要に応じて会計・税務・経営の事例を紹介しながら理解を深めていきます。					
キーワード					
簿記一巡、財務諸表、損益計算書、貸借対照表、銀行勘定調整表、売掛金、受取手形、電子記録債権、電子記録債務、三分法、売上原価対立法、返品、値引、割戻、割引、役務収益、役務原価、売買目的有価証券、満期保有目的債券、子会社株式及び関連会社株式、その他の有価証券					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	財務会計の基礎となる商業簿記を学習し、日商簿記2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目標とする。経済的に複雑な取引であっても、簡単に仕訳ができる技能を身につける。		
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	財務諸表のうち貸借対照表・損益計算書から説明される内容・役割を、複式簿記を通じて理解する。仕訳習得を通じて、取引を分類して帳簿に記載する判断力を養う。また、1つ1つの仕訳を記帳するとどの様な結果になるか思考できることを目標とする。		
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしないが、自身の活動等により深められた知見等が授業内や学期末試験等を通じて認められる際には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしないが、講義を通じて著しく公正性を欠く言動・不正行為があった際は、減点や嚴重注意の対象となる場合がある。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	【第01回】 ガイダンス、簿記一巡の手続と財務諸表 【第02回】 現金預金と債権の譲渡 【第03回】 手形 【第04回】 有価証券 【第05回】 その他の債権・債務 【第06回】 商品売買①-三分法等 【第07回】 商品売買②-契約資産と契約負債等 【第08回】 固定資産①-有形固定資産等 【第09回】 固定資産②-無形固定資産、投資その他の資産等 【第10回】 引当金 【第11回】 収益と費用 【第12回】 リース会計 【第13回】 決算①-決算整理等 【第14回】 決算②-財務諸表の作成等 【第15回】 総括 定期試験
使用テキスト	編著者 渡部裕巨他『検定簿記講義／2級商業簿記〔2024年度版〕』『検定簿記ワークブック／2級商業簿記』 ※なお、新年度版が出版された場合には、新年度版を購入すること。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前にテキストの閲覧を行い、講義後に復習を実施する必要がある。比重は復習におくのがよい。講義を通じて得た理解が忘却する前に問題を解くことが肝要である。 標準的には、復習60分が目安となる。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段	必要に応じて、授業時にお知らせします。
留意事項	電卓を必ず用意すること。可能であればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード	41050	科目ナンバリング	MA20C11K	主な使用言語	日本語
授業名	会社簿記論				
担当者	竹内 翼				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16, 17	
授業の概要					
本講義では、財務会計の基礎となる商業簿記を学習します。前期の「応用簿記論」に引き続き、日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目的とします。応用簿記論が各種取引を取り扱っていたことにに対し、「会社簿記論」では、株式会社における純資産、本支店会計、連結会計など組織構造が複雑になる取引を取り扱います。応用簿記論に引き続き、講義では仕訳を習得することを重視しますが、会社法等の法制度への理解や組織構造への理解も必要となります。社会環境の高度化に伴い、企業を取り巻く環境が複雑になっているためです。講義は、テキストに沿って各取引の解説を行い、その都度、基本問題を解く形で進めていきます。簿記は、講義を聞くだけでは修得できず問題演習を通じて理解度が高まるため、積極的に問題を解くことを推奨します。					
※授業計画は、授業の進行状況や学生の理解度に応じて変更する場合があります。					
※実際の日商簿記検定2級では、工業簿記も試験範囲となっているため、合格を目標とする場合は別途工業簿記を学習することが望ましいです。					
※元銀行員・税理士業務での実務経験を活かし、必要に応じて会計・税務・経営の事例を紹介しながら理解を深めていきます。					
キーワード					
純資産、会社設立、開業、増資、合併、剰余金の処分、配当金、資本準備金、利益準備金、繰越利益剰余金、法人税、住民税及び事業税、消費税等、為替差損益、税効果会計、連結会計					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	前期の「応用簿記論」に引き続き、日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目標とする。		
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	株式会社特有の純資産、本支店会計、連結会計など組織構造が複雑になる取引を仕訳で理解する。また、このような仕訳を通して、株式会社のしくみまで理解できるようになる。結果として財務諸表の数値を読める思考力が身につく。		
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしないが、自身の活動等により深められた知見等が授業内や学期末試験等を通じて認められる際には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしないが、講義を通じて著しく公正性を欠く言動・不正行為があった際は、減点や嚴重注意の対象となる場合がある。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	【第01回】 ガイダンス、株式会社の純資産①-意義、設立・開業 【第02回】 株式会社の純資産②-増資、剰余金の処分等 【第03回】 株式会社の純資産③-会社の合併、株主資本以外の純資産 【第04回】 税金①-法人税、住民税および事業税 【第05回】 税金②-消費税等の処理 【第06回】 外貨建取引 【第07回】 税効果会計 【第08回】 本支店会計①-意義、本支店間取引の処理等 【第09回】 本支店会計②-本支店会計における決算手続 【第10回】 連結会計①-意義、資本連結 【第11回】 連結会計②-非支配株主持分等 【第12回】 連結会計③-連結会社間取引の処理等 【第13回】 連結会計④-連結精算表 【第14回】 連結会計⑤-連結財務諸表の作成 【第15回】 総括 定期試験
使用テキスト	編著者 渡部裕巨他『検定簿記講義／2級商業簿記〔2024年度版〕』『検定簿記ワークブック／2級商業簿記』（前期科目「応用簿記論」と同一のテキストを使用） ※なお、新年度版が出版された場合には、新年度版を購入すること。 事前にテキストの閲覧を行い、講義後に復習を実施する必要がある。比重は復習におくのがよい。講義を通じて得た理解が忘却する前に問題を解くことが肝要である。 標準的には、復習60分が目安となる。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	必要に応じて、授業時にお知らせします。

留意事項

電卓を必ず用意すること。可能であればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード	41085	科目ナンバリング	MA20C19K	主な使用言語	日本語
授業名	公共経営特講				
担当者	野口 通				
基本情報					
年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	10. 資料調査課題 16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
本授業は、公共経営の中で重要な位置を占める地方行政について実践的な視点から学ぶ「実践的地方行政論」である。地方自治体がどのような課題に対しどのように政策を立案し実施しているのか、その過程で直面する困難をどう乗り越えているのかなどを具体的に学ぶ。実例としては、担当者の経験の他、今の動きを捉えた新聞記事などを取り上げる。何が行われているかという事実を知るだけでなく、なぜそのようなことが行われているのかの理解を重視する。また、自ら地域振興のための課題を分析し具体的な対応策について考える機会を提供する。 なお、授業担当者は長年茨城県庁の最前線において、新規事業の企画・実践を含む様々な業務に携わってきた。その実務経験を活かし、授業を進めていく。					
キーワード					
地方行政、地方自治体、公共、地方自治法、首長、議会、地方公務員、税、財政、計画、共創、地域振興、街づくり					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説を受けた地方行政の仕組みや自治体の実践例について、基本的な事項を理解し説明することができる。		
評価方法	授業後のレポート	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自らの所見を明確に表現することができる。		
評価方法	授業後のレポート、学期末レポート	評価割合	60%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし、調査や考察等に時間をかけるなど、自主的な学修に積極的に取り組んだことが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただし、地域におけるボランティア活動等により、本授業のテーマに関わる実践的な知見が深まっていることが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の進行や他の学生の学習を妨げる言動、差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	15回の授業で取り上げる内容は概ね次の通り。 イントロダクション：本授業のテーマ。「公共」、「地域振興」について。 地方行政基礎知識 組織、首長と議会、税・財政 法律、権限、国と地方の関係 仕事の進め方 問題把握、対応策立案・実行、チェック 計画策定、合意形成 自治体共通の課題 自治体と地域振興 地域振興とは何か 地域を元気にするために自治体は何をすればいいのか 自治体による地域振興策の実例 — 広報、報道から読み解き、考える 観光、地元産品 産業振興（企業誘致、ベンチャー育成を含む） 街づくり 交通問題 人口減少、少子化・高齢化対策 文化 計画行政：計画の必要性、様々な計画、計画の立て方 まとめ これからの地方行政。地域をもっと元気にするために必要なこと。 自分が首長/議員/自治体職員だったら何をすべきか
使用テキスト	授業で使用する資料は教室で投影する。一部はPDFで配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：随時、自ら調べたり考えたりすることが望ましい事項を伝え、参考資料がある場合は提示するので、それらに基づき準備の上、授業に臨んで欲しい。 復習：授業内容を振り返り、自分が予め考えたことについて補足、修正等があるか考えて欲しい。 参考文献：地方自治について理解を深めたい学生には、次の書籍を勧める。 曾我謙悟『日本の地方政府』中央公論新社、2019 大森彌・大杉寛『これからの地方自治の教科書 改訂版』第一法規株式会社、2021
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。アドレスは初回の授業でお知らせします。

留意事項

デバイスの持参を推奨します。

科目コード	41130	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	マーケティングコミュニケーション論				
担当者	田原 静				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日・時間	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答		
授業の概要					
マーケティング・コミュニケーションとは、広告・広報・セールスプロモーション・イベント・ブランドコミュニティなど、企業が顧客との関係性構築のために行う活動全般を指す。企業にとって、顧客とのあらゆる接点をいかにマネジメントするかは、事業の成否に大きく影響するようになってきている。 本科目では、マーケティング・コミュニケーションに関する基礎的な概念や理論を学ぶことで、企業・消費者双方の立場からマーケティング・コミュニケーションの役割や機能を理解することを目標に講義を進めていく。広告をはじめとする様々なプロモーション手段の理解に加え、マーケティング活動全般の視点から企業のコミュニケーション活動を評価・分析できるようになることを目指す。					
キーワード					
コミュニケーション、顧客接点、広告、広報、セールス・プロモーション					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	授業で解説した「マーケティング・コミュニケーション」に関する概念や理論について理解し説明することができる。		
評価方法	学期末試験	評価割合	40%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で学習した「マーケティング・コミュニケーション」に関する基礎的な概念・理論を用いて、企業の広告・販促活動等の事例を分析し、論理的に説明できる。		
評価方法	学期末試験	評価割合	40%
▼学修に主体的に取り組む態度			
授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	【第1回】ガイダンス：マーケティング・コミュニケーションとは何か 【第2回】広告とは何か：広告／マーケティング・コミュニケーションの定義と役割 【第3回】広告と社会志向・社会倫理 【第4回】広告／マーケティング・コミュニケーションの現況 【第5回】広報・パブリシティ 【第6回】セールス・プロモーション 【第7回】デジタル・マーケティング・コミュニケーション 【第8回】マーケティングコミュニケーションの設計・計画と効果測定 【第9回】マーケティング・コミュニケーションの実務－広告会社やWEBマーケティング会社の仕事 【第10回】顧客との関係性構築とマーケティング・コミュニケーション 【第11回】ブランド・コミュニティ 【第12回】クチコミとマーケティング・コミュニケーション 【第13回】店舗内におけるマーケティング・コミュニケーション 【第14回】ソーシャルマーケティングとマーケティング・コミュニケーション 【第15回】全体のまとめ
使用テキスト	特定の教科書は使用しない。授業で使う資料はPDFにしてUNIPA等へアップする（授業で使用するスライド等は特別な場合を除き紙では配布はしない）
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと（60分）。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと（60分）。その他、別途資料を配布した際などは、事前に必ず目を通してうえで授業に参加すること。参考文献や資料等は、必要に応じ授業内で適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	メールにて対応する。
留意事項	授業期間内で複数回課す「レポート類」やと期末試験を総合して評価する。講義形式を中心に進めていくが、授業中に簡単なワークなどに取り組んでもらうこともある。その際は積極的に議論に参加をし、発言・発表を求められた場合はきちんと対応すること。 なお、授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。 BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし、原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応すること。

科目コード	41133	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	中小企業経営論				
担当者	椎名 則夫				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
日本経済の基盤を支える中小企業について、その現状、課題、および潜在力を多角的に理解する。特に、成長戦略、DX・GX、イノベーション、グローバル化、事業承継などの今日的論点を学ぶ。さらに、産業活性化の観点で注目を集めるスタートアップについて概観する。これらを通じて、中小企業のさまざまな課題に対して主体的に解決策を見出すことができるための基礎力を身につけ、事業プランの策定に着手できるようになることを到達目標とする。					
キーワード					
中小企業経営 事業承継 スタートアップ ビジネスモデルキャンパス					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	中小企業の現状・課題・潜在力などを授業で解説を受けた概念・枠組みを用いて理解したうえで、授業で扱うビジネスモデル構築の枠組みをベースにし、概ね80%適確に自らが考えるビジネスプランの策定ができること。		
評価方法	学期末レポート課題	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱う概念・枠組みを用いて、課題となる事例を分析し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	レポートおよびプレゼンテーション。各人お気に入りの起業家・事業化について調査・分析し、プレゼンテーションをしていただく予定です。	評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度			
出席状況を含めた授業態度。発表・発言などで積極的に授業に貢献した場合は10%程度の加点を行う。			
評価割合	20%		
▼実践的ボランティア			
直接的な評価対象とはしない。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となる。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	第01回	ガイダンス データで見る日本の中小企業（中小企業白書のデータを俯瞰し、大企業との比較および産業構造の視点から中小企業の特性を把握する）
	第02回	中小企業の戦後の歩みと政策（戦後の中小企業の発展を1980年代までと1990年代以降に分けて整理し、あわせて中小企業政策の変遷をおさえる）
	第03回	中小企業の存立原理（大企業の規模の経済の範囲外、不完全競争、企業・事業のライフサイクルとディスラプターとしての新興企業など、中小企業の存立を説明する経済学的視座を整理する。さらに大企業との取引関係についても触れる）
	第04回	職場としての中小企業（経営者のインセンティブ、従業員の賃金・待遇、専門化と多能工化、独立などに関して大企業との比較を踏まえて中小企業の特徴を整理する）
	第05回	中小企業の金融（収益性、財務体質、取引先との資金繰り関係、銀行との関係、公的金融支援、フィンテックの役割、経営者保証などを取り上げる）
	第06回	中小企業の事例 製造業編（大田区・東大阪などの産業クラスター、海外展開などの紹介を予定）
	第07回	中小企業の事例 非製造業編（大店法・フランチャイズシステムなど外部環境の整理と事例紹介を予定）
	第08回	中小企業と社会課題（DX、GX、待遇、少子高齢化、グローバル化、イノベーションなどの諸点で中小企業に期待されることを整理する）
	第09回	事業承継I（過剰債務ないし後継者難に直面する中小企業の現状を理解し、廃業・事業譲渡＜M&A＞・EBOなどの選択肢を整理する）
	第10回	事業承継II（事業承継を促進する助言・金融・法務などの事業者を紹介し、事業承継を成長戦略にすえる企業を分析する）
	第11回	スタートアップI（スタートアップを定義し、その今日の特徴を整理する。次にスタートアップの成長ステージを整理し、内外のユニコーンと呼ばれる企業を紹介する）
	第12回	スタートアップII（スタートアップをサポートするエコシステムを紹介し、スタートアップで一般的に考えられるビジネスモデルキャンパスの考え方を学ぶ）
	第13回	新興企業事例I（上場に至りさらに成長を続ける企業を事例にビジネスモデルキャンパスを適用して分析し、その成功要因や重要なKPIを抽出する；Z020等を予定）
	第14回	新興企業事例II（第14回に続き、メルカリ等を分析する予定）
	第15回	中小企業の将来展望、まとめ、Q&A
各人、プレゼンテーションをしていただく予定です。 また可能な限り、スタートアップに勤務する社会人の方に、オンライン等でプレゼンテーションをしていただく予定です。 授業計画は授業の進度に応じて変更することがあります。		
使用テキスト	特定のテキストを使用しません。毎回レジュメ・資料を用意します。中小企業庁による中小企業白書は基本文献として適宜熟読してください。 https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/index.html	

予習・復習の ポイントと 参考文献・資料等	予習においては、レジュメに目を通し疑問点などを整理して授業に臨んでください。 復習においては、講義のまとめを随時していただくとともに、課題がある場合は都度期限までに提出してください。 参考文献 『よくわかる中小企業』関智宏編著 ミネルヴァ書房 2020年 『中小企業・スタートアップを読み解く 伝統と革新、地域と世界』加藤厚海 福嶋路 宇田忠司著 有斐閣ストゥディア 2023年 『21世紀中小企業論 多様性と可能性を探る 第4版』渡辺幸雄 小川正博 黒瀬直宏 向山雅夫著 有斐閣アルマ 2022年 『日本の中小企業 少子高齢化時代の起業・経営・承継』関満博著 中公新書 2017年
障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡 手段	オフィスアワーに対応します。連絡方法は初回の授業でお知らせします。
留意事項	日頃から経済ニュースに触れ、気になる企業に出会った場合は深掘りするように心がけてください。